

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月27日
【事業年度】	第116期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）
【会社名】	株式会社ティラド
【英訳名】	T.RAD Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員（C00） 宮崎 富夫
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区代々木3丁目25番3号
【電話番号】	03（3373）1101
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 経理・財務部長 金井 典夫
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区代々木3丁目25番3号
【電話番号】	03（3373）1101
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 経理・財務部長 金井 典夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第112期	第113期	第114期	第115期	第116期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	95,248	103,442	102,132	107,608	124,490
経常利益 (百万円)	4,999	3,656	1,424	3,544	6,445
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	2,046	484	745	2,022	3,691
包括利益 (百万円)	4,482	4,021	2,489	1,586	4,189
純資産額 (百万円)	42,077	44,848	41,855	42,385	46,639
総資産額 (百万円)	72,143	82,408	78,764	79,213	94,241
1株当たり純資産額 (円)	4,968.99	5,315.60	4,976.88	5,211.69	5,635.91
1株当たり当期純利益 (円)	249.06	58.95	90.70	252.74	463.77
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	56.6	53.0	51.9	52.4	47.6
自己資本利益率 (%)	5.3	1.2	1.8	4.9	8.6
株価収益率 (倍)	11.8	43.5	20.0	13.1	8.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,764	4,872	4,958	6,693	9,202
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	6,526	8,223	8,115	5,775	4,422
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	934	2,112	2,385	1,425	749
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	8,372	7,805	6,760	6,216	11,965
従業員数 (名)	3,040	3,329	3,492	3,798	4,485

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第112期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第112期	第113期	第114期	第115期	第116期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (百万円)	58,282	60,448	58,558	56,834	63,522
経常利益 (百万円)	2,168	1,983	1,912	2,856	4,025
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	290	356	880	1,904	2,711
資本金 (百万円)	8,545	8,545	8,545	8,545	8,545
発行済株式総数 (千株)	83,444	83,444	83,444	83,444	8,344
純資産額 (百万円)	29,889	29,456	28,452	29,801	31,926
総資産額 (百万円)	50,905	55,276	52,713	52,391	60,003
1株当たり純資産額 (円)	3,633.08	3,580.88	3,459.26	3,743.88	4,010.91
1株当たり配当額 (円)	8	6	6	6	63
(内1株当たり中間配当額) (円)	(4)	(4)	(3)	(3)	(3)
1株当たり当期純利益又は当期純損失 () (円)	35.31	43.45	107.17	238.02	340.65
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	58.6	53.2	53.9	56.9	53.2
自己資本利益率 (%)	1.0	1.2	3.0	6.5	8.8
株価収益率 (倍)	83.0	-	16.9	13.9	11.6
配当性向 (%)	226.6	-	56.0	25.1	26.4
従業員数 (名)	1,522	1,519	1,525	1,531	1,555

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第112期、114期、115期、116期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第113期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 第113期の株価収益率、配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

5. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第112期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、株当たり当期純利益又は当期純損失()を算定しております。

6. 第116期の1株当たり配当額63円は、中間配当額3円と期末配当額60円の合計となります。なお、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合しておりますので、中間配当3円は株式併合前の金額、期末配当金額60円は株式併合後の金額となります。

2【沿革】

昭和11年11月 自動車用その他各種内燃機関用ラジエーターおよびオイルクーラーその他の部品製造販売を目的とし、資本金500千円をもって株式会社東洋ラジエーター製作所として創立

昭和12年1月 川崎工場操業開始

昭和15年8月 名古屋工場操業開始

昭和19年5月 東洋冷却器株式会社に改称

昭和26年8月 東洋ラジエーター株式会社に改称

昭和33年6月 大阪出張所開設

昭和34年11月 川崎、名古屋両工場を川崎製作所、名古屋製作所に改称

昭和35年4月 秦野工場操業開始、技術研究所開設

昭和36年10月 東京証券取引所市場第2部に株式を上場

昭和37年6月 秦野工場を秦野製作所に改称

昭和37年11月 川崎製作所を秦野製作所に移転

昭和40年6月 本店所在地を東京都中央区銀座1丁目7番地より東京都新宿区西新宿7丁目4番3号に移転

昭和44年4月 八日市製作所操業開始

昭和44年8月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定

昭和56年5月 秦野製作所戸川工場操業開始

昭和57年10月 米国駐在員事務所開設

昭和58年9月 名古屋製作所戸部下工場操業開始

昭和60年6月 名古屋製作所東浦工場操業開始

昭和62年5月 三谷伸銅(株)と合併会社、テーエムテー(株)設立

昭和62年7月 本店所在地を東京都新宿区西新宿7丁目4番3号より東京都渋谷区桜丘町31番2号に移転

昭和63年1月 トーヨーUSA Inc.設立(米国駐在員事務所法人化)

平成2年1月 CoPAR Inc.へ出資(現 T.RAD North America, Inc.)

平成2年6月 TORC Co., Ltd.設立

平成5年4月 名古屋製作所東浦工場を東浦製作所として独立

平成6年2月 本店所在地を東京都渋谷区桜丘町31番2号より現所在地に移転

平成7年12月 青島東洋汽車散熱器有限公司設立

平成8年3月 トーヨーUSA Inc.、CoPAR Inc.と合併

平成9年8月 TATA TOYO RADIATOR Ltd.設立

平成11年7月 東升熱交換器工業(股)設立

平成11年9月 TOYO RADIATOR (THAILAND) Co., Ltd.設立(現 T.RAD (THAILAND) Co., Ltd.)

平成13年6月 ベーア東洋エンジンクーリングシステムズ株式会社設立

平成13年11月 Tesio Radiatori S.p.A.設立(T.RAD ITALIA S.p.A)

平成13年12月 テーエムテー(株)解散

平成14年4月 東洋熱交換器(中山)有限公司設立

平成15年3月 テーエムテー(株)清算

平成16年7月 TOYO RADIATOR Czech s.r.o.設立(現 T.RAD Czech s.r.o.)

平成17年4月 株式会社ティラドに改称

平成17年4月 青島東洋熱交換器有限公司設立

平成20年5月 PT. T.RAD INDONESIA設立

平成20年6月 TRM Corporation B.V.設立

平成21年1月 TRM LLCへ出資

平成22年8月 濟寧東洋熱交換器有限公司設立

平成24年3月 東洋熱交換器(常熟)有限公司設立

平成24年10月 T.RAD (VIETNAM) Co., Ltd.設立

平成25年9月 T.RAD ITALIA S.p.A.売却

平成28年4月 T.RAD North America, Inc.がTripac International Inc.の株式を取得

平成29年3月 東洋(常熟)熱交換器研发中心有限公司設立

平成29年6月 T.RAD Sales Europe GmbH設立

平成29年10月 青島東洋熱交換器有限公司連結子会社化

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社ティラド）、連結子会社17社及び関連会社2社より構成されており、各種熱交換器の製造・販売を主たる業務としているほか、これらに付帯するサービス業務等を営んでおります。

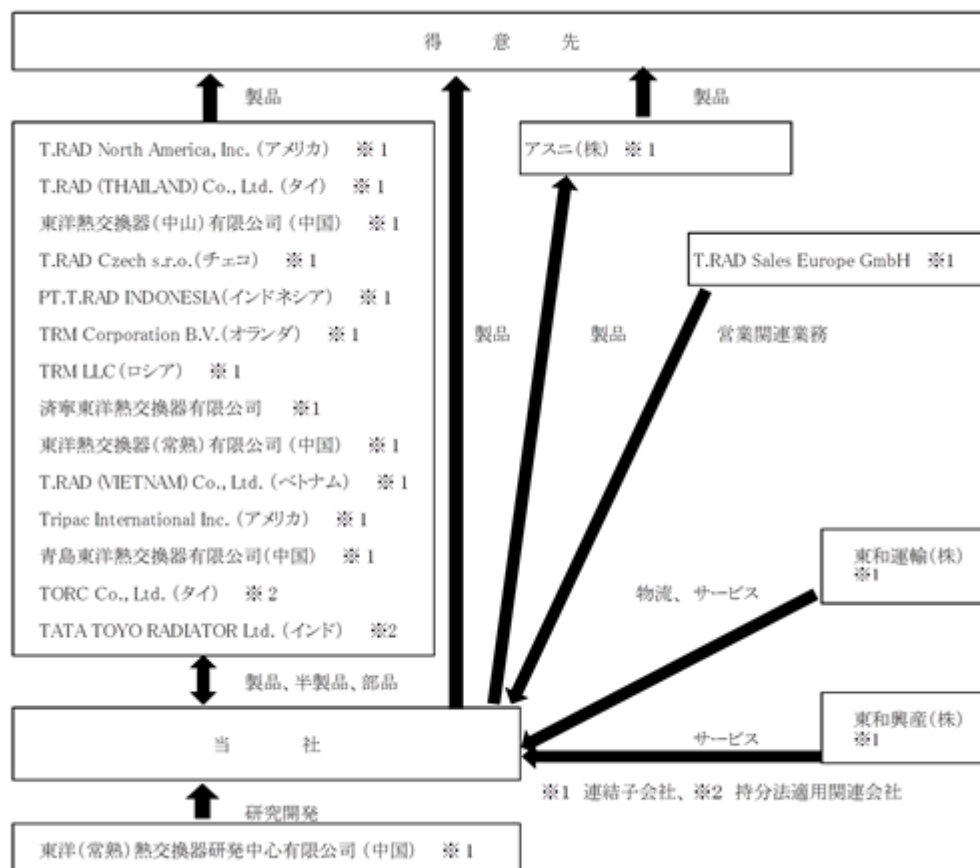
なお、各報告セグメントの構成は以下のとおりとなっており、この報告セグメントは、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメント情報の区分と同一です。

報告セグメント	主要な会社
日本	当社
米国	T.RAD North America, Inc. Tripac International Inc.
欧州	T.RAD Czech s.r.o. TRM Cororation B.V. TRM LLC T.RAD Sales Europe GmbH
アジア	T.RAD (THAILAND) Co., Ltd. PT.T.RAD INDONESIA T.RAD (VIETNAM) Co.,Ltd. TORC Co., Ltd. (注)1 TATA TOYO RADIATOR Ltd. (注)1
中国	東洋熱交換器（中山）有限公司 濟寧東洋熱交換器有限公司 東洋熱交換器（常熟）有限公司 東洋（常熟）熱交換器研发中心有限公司 青島東洋熱交換器有限公司
その他（日本）	アスニ（株） 東和運輸（株） 東和興産（株）

（注）持分法適用関連会社は、所在地の報告セグメントに含めて表示しております。

[事業系統図]

以上の当社グループの状況について事業系統図を示すと、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
T.RAD North America, Inc. (注2, 4)	米国 ケンタッキー州 ホプキンスビル市	千米ドル 70,000	熱交換器の製造・販売	100.0	営業上の取引 役員の兼任あり
Tripac International Inc.	米国 テキサス州 フォートワース市	千米ドル 4,166	熱交換器の製造・販売	93.1 (注1)(93.1)	営業上の取引
T.RAD Czech s.r.o. (注2)	チェコ ウンホスト市	千CZK 780,000	熱交換器の製造・販売	96.8	営業上の取引 債務保証 資金の貸付
TRM Corporation B.V. (注2)	オランダ アムステルダム市	千EUR 26,172	熱交換器の製造・販売	75.0	TRM LLCの持株会社 役員の兼任あり
TRM LLC (注2)	ロシア ニジニノヴゴロド市	千RUB 1,059,742	熱交換器の製造・販売	75.0 (注1)(75.0)	営業上の取引 債務保証 資金の貸付
T.RAD (THAILAND) Co., Ltd. (注2)	タイ チャチェンサオ県	千THB 390,500	熱交換器の製造・販売	100.0	営業上の取引 役員の兼任あり
PT.T.RAD INDONESIA	インドネシア ジャワ島ブカシ市	千米ドル 7,300	熱交換器の製造・販売	90.0 (注1)(26.3)	営業上の取引 役員の兼任あり
T.RAD (VIETNAM) Co., Ltd.	ベトナム ハノイ市	千米ドル 6,300	熱交換器の製造・販売	100.0	営業上の取引 役員の兼任あり
東洋熱交換器(中山)有限公司(注2)	中国 広東省中山市	千元 107,601	熱交換器の製造・販売	90.0	営業上の取引 役員の兼任あり
濟寧東洋熱交換器有限公司	中国 山東省濟寧市	千元 3,000	熱交換器の製造・販売	90.0 (注1)(90.0)	営業上の取引
東洋熱交換器(常熟)有限公司(注2)	中国 江蘇省常熟市	千米ドル 17,000	熱交換器の製造・販売	90.0	営業上の取引 役員の兼任あり
東洋(常熟)熱交換器 研发中心有限公司	中国 江蘇省常熟市	千米ドル 2,200	熱交換器の開発	100.0	営業上の取引 研究開発拠点
T.RAD Sales Europe GmbH	ドイツ シュトゥットガルト市	ユーロ 25,000	欧州地区でのT.RADの 営業業務	100.0	営業上の取引
青島東洋熱交換器 有限公司	中国 山東省青島市	千元 61,339	熱交換器の製造・販売	64.0	営業上の取引
アス二(株)	神奈川県秦野市	千円 15,325	熱交換器の販売	100.0 (注1)(50.0)	営業上の取引
東和運輸(株)	愛知県知多郡 東浦町	千円 48,900	貨物自動車運送	100.0 (注1)(13.0)	営業上の取引 製品の輸送他
東和興産(株)	愛知県名古屋 南区	千円 334,720	不動産管理業等	100.0 (注1)(7.3)	営業上の取引
(持分法適用関連会社)					
TORC Co., Ltd.	タイ チャチェンサオ県	千THB 60,000	熱交換器の製造・販売	45.0	営業上の取引
TATA TOYO RADIATOR Ltd.	インド ブネ市	千INR 320,000	熱交換器の製造・販売	40.2	営業上の取引

(注) 1. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

2. T.RAD North America, Inc.、T.RAD Czech s.r.o.、TRM Corporation B.V.、TRM LLC、T.RAD (THAILAND) Co., Ltd.、東洋熱交換器(中山)有限公司、東洋熱交換器(常熟)有限公司、青島東洋熱交換器有限公司は特定子会社であります。

3. 上記連結子会社17社及び関連会社2社は、有価証券届出書及び有価証券報告書を提出しておりません。

4. 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が、10%を超えておりますが、当該連結子会社の売上高は、セグメント情報の「米国」地区における売上高の100分の90を超えておりますので、主要な損益情報等の記載を省略しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
日本	1,555
米国	801
欧州	216
アジア	926
中国	866
報告セグメント計	4,364
その他	121
合計	4,485

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。
3. 従業員数が、前連結会計年度末に比べ687名増加したのは、主に平成29年10月9日付で青島東洋熱交換器有限公司(中国)を連結子会社化したことによるものです。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,555	40.5	17.6	6,329,140

セグメントの名称	従業員数(人)
日本	1,555
合計	1,555

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、1,469名(平成30年3月31日現在)の従業員で組織されており、労使関係は組合結成以来きわめて安定しており、現在までのところ特記事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループは、平成26年から開始した4カ年の第10次中期経営計画『T・RAD-10』において、全てのステークホルダー（株主様、お客様、仕入先様、会社近隣の方々、従業員）の皆様から企業活動に対して信頼を得る『信頼される企業』、世界市場で勝ち抜く事のできる企業となる『グローバル成長』を基本戦略と定めております。

当連結会計年度は、『T・RAD-10』の最終年度にあたります。

『信頼される企業』に対しては、「やりきる体質への変革」のスローガンの元「安全衛生」「コンプライアンス」「品質」に係る活動を見直し、強化いたしました。その中でも「品質」を最重要課題とし、本年度を「体質改革元年」と位置付けて仕損廃却費の大幅な低減や生産性の向上に取り組み、収益向上を目指してまいりました。

世界市場での発展を目指し、グローバルビジネスの選択と集中により、軽自動車用から大型建設機械用まで対応するSMART（ ）シリーズを更に充実させてまいりました。さらに、次世代の環境貢献商品の展開として、EGRクーラ、ケーシングレスオイルクーラ、水冷チャージエアクーラなど、小型軽量で高性能な商品の開発と提案を進めており、多くのお客様に採用され始めています。

（ SMARTとは：Slim & Advanced Radiator Technology

当社の技術の粋を集めた世界トップレベルのラジエータ）

また、グローバルネットワーク強化の一環として、平成29年10月に中国の青島東洋熱交換器有限公司を連結子会社いたしました。世界でパワートレーンの電動化が最も進んでいる中国において、同社と当社グループが連携を強化し、中国ローカル自動車メーカーへのビジネス拡大をめざします。

2【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財政状況等に影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経済状況

当社グループの製品の需要は、当社グループが製品を販売している国または地域の経済状況の影響を受ける可能性があるため、日本はもとより主要な市場である米国、欧州、アジア、中国における景気悪化及びそれに伴う需要減少は当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 海外事業展開

自動車業界を中心とする当社グループの取引先は、新しい市場への対応やコスト削減のためグローバル化が進展しており、今後もますます全世界的に進展していくものと思われます。これに対応するため当社グループは積極的な海外事業展開を進めており、すでに米国・欧州・アジア・中国に進出しております。また、今後もさらなる海外事業展開が必要となります。

一方、海外事業の拡大には以下のようなリスクが内在しております。

税制をはじめとする法規制の予測不能な変更

政治的な不安定要因

人材確保・教育の難しさ

テロ・戦争・伝染病の流行などによる混乱

為替相場の変動による採算の悪化や、損失の発生

これらのリスクが顕在化することにより、当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 自動車業界における環境変化

当社グループの所属する自動車業界を取り巻く環境は大きく変化しており、グローバル化による競争激化や、次世代自動車対応が重要な課題となっております。当社グループにおいても、低コスト製品の開発や、ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車等の車両電動化に対応した冷却システムの開発を進めております。これら新技術に対応した商品の開発の遅れや、競合相手先における画期的な技術開発により低価格・高性能な製品が市場に投入された場合、取引先における当社グループのシェアの低下や、採算の悪化により、当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 原材料価格の上昇

当社グループが購入する主要な原材料はアルミ・銅などの非鉄金属ですが、これらの購入価格は非鉄金属市場の市況の影響や為替相場により、変動するリスクを持っております。購入価格の上昇分を販売価格に転嫁できる取引先もありますが、転嫁できない取引先や、一部の転嫁にとどまる取引先もあります。また、購入価格上昇時と、転嫁時の時期的なずれもあり、原材料価格の上昇リスクが、当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を与える可能性があります。

(5) 訴訟、規制当局による措置その他の法的手続等

当社グループは、事業を遂行するうえで、訴訟、規制当局による措置その他の法的手続に関するリスクを有しております。訴訟、規制当局による措置その他の法的手続により、当社グループに対して損害賠償請求や規制当局による金銭的な賦課を課され、または事業の遂行に関する制約が加えられる可能性があり、かかる訴訟、規制当局による措置その他の法的手段は、当社グループの事業、経営成績及び財政状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社および米国連結子会社 T.RAD North America, Inc. は、自動車用部品の取引に関し、独占禁止法違反があったとして、平成24年から25年にかけて、課徴金および罰金を支払いいたしました。

また、平成26年から平成30年にかけて、米国およびカナダで提起された各種集団民事訴訟（クラスアクション）の原告を含む関係者と和解の合意をし、和解金を計上いたしました。

当該事件に関連して、今後、開示すべき重要事項が発生した場合は、速やかに開示するとともに、コンプライアンス体制を一層強化し、再発防止策の徹底を図ってまいります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

業績等の概要

(1) 業績

当連結会計年度の経済環境は、輸出の増加や円安進行などを背景に、企業収益環境の改善が持続し、緩やかな回復基調にあります。先行きは、米国防権の保護主義的な政策運営や地政学的リスクなど、不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当企業集団の売上高（外貨ベース）は、米国、中国、アジアの子会社における業績好調により増収増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益についても、独占禁止法関連の和解金支払に伴う特別損失を計上致しましたが、投資有価証券売却益の計上及び連結子会社化した青島東洋熱交換器有限公司の段階取得にかかる差益の計上等により、前期比増益となりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は前期比16,881百万円増加し、124,490百万円（15.7%増）、営業利益は2,576百万円増加し、5,792百万円（80.1%増）、経常利益は2,901百万円増加し、6,445百万円（81.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,669百万円増加し、3,691百万円（82.6%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

連結子会社の当連結会計年度の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。該当するセグメントは、米国、欧州、アジア、中国であります。

なお、当連結会計年度において、新設したT.RAD Sales Europe GmbHを連結の範囲に含めております。該当するセグメントは、欧州であります。

また、当連結会計年度において、株式を追加取得した青島東洋熱交換器有限公司を連結の範囲に含めております。該当するセグメントは、中国であります。

セグメント	売上高				営業利益			
	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	増減率 (外貨ベース)	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	増減率 (外貨ベース)
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(%)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(%)
日本	51,521	56,862	5,341	10.4	777	604	172	22.2
米国	26,003	30,236	4,233	19.9	334	678	1,012	309.4
欧州	3,866	4,126	260	4.1	284	509	224	67.0
アジア	15,636	17,055	1,418	4.9	986	2,116	1,129	109.1
中国	9,593	15,242	5,648	55.9	1,717	2,709	992	52.9
その他 (含む消去)	986	966	20	2.1	353	192	161	45.5
合計	107,608	124,490	16,881	15.3	3,216	5,792	2,576	76.3

表中の増減率（外貨ベース）は、海外売上の為替換算レート変動による差異を補正した場合の増減率です。

日本

自動車用売上高は、当社受注機種の上売が好調に推移したことにより、前期比増加しました。建設産業機械用売上高は、中国向け需要増加及びマイニング市場の回復により、前期比増加しました。この結果、当該セグメントの売上高は、5,341百万円増加し、56,862百万円となりました。

営業利益は、研究開発費及び無償修理費の増加等により前期比172百万円減少し、604百万円となりました。

米国

自動車用売上高は、新規受注した機種 of 量産開始等が寄与し、前期比大幅に増加しました。この結果、当該セグメントの売上高は、外貨ベースで、前期比19.9%の増加となりました。円貨ベースでは、4,233百万円増加し、30,236百万円となりました。

営業利益は、前期比1,012百万円増加し、678百万円となりました。外貨ベースでは、309.4%の増益となりました。

欧州

自動車用売上高は、チェコ、ロシア共に受注数減少により前期比減少しました。この結果、当該セグメントの売上高は、外貨ベースで、前期比4.1%の減少となりました。円貨ベースでは、為替の影響により260百万円増加し、4,126百万円となりました。

営業利益は、前期比224百万円減少し、509百万円となりました。外貨ベースでは、67.0%の減益となりました。

アジア

自動車用売上高は、タイ、インドネシア、ベトナムにおいて当社受注機種の売上好調により、前期比増加しました。この結果、当該セグメントの売上高は、外貨ベースで、前期比4.9%の増加となりました。円貨ベースでは、1,418百万円増加し、17,055百万円となりました。

営業利益は、前期比1,129百万円増加し、2,116百万円となりました。外貨ベースでは、109.1%の増益となりました。

中国

自動車用売上高は、新規受注機種の量産開始及び主要客先の受注増加、第3四半期より追加出資し子会社化した青島東洋熱交換器有限公司の売上が新たに加わったことにより、前期比大幅に増加しました。建設産業機械用売上高は、中国国内市場好調により大幅に増加しました。この結果、当該セグメントの売上高は、外貨ベースで、前期比55.9%の増加となりました。円貨ベースでは、5,648百万円増加し、15,242百万円となりました。

営業利益は、前期比992百万円増加し、2,709百万円となりました。外貨ベースでは、52.9%の増益となりました。

また、用途別製品販売の概況は次のとおりであります。

用途別売上高	前連結会計年度		当連結会計年度		増減	
	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	増減率(%)
自動車用	75,769	70.4	88,185	70.8	12,416	16.4
建設産業機械用	21,643	20.1	26,957	21.7	5,314	24.6
空調機器用	6,793	6.3	5,721	4.6	1,072	15.8
その他	3,401	3.2	3,625	2.9	223	6.6
合計	107,608	100.0	124,490	100.0	16,881	15.7

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの増減要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加等により、前期比2,509百万円増加し、9,202百万円プラスとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産取得の減少及び投資有価証券売却の増加等により、前期比1,352百万円増加し、4,422百万円マイナス、及び財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の増加等により、前期比2,175百万円増加し、749百万円プラスとなりました。

その結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末比5,749百万円増加し、11,965百万円となりました。

生産、受注及び販売の実績

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前期比(%)
日本	54,860	109.3
米国	30,238	116.3
欧州	4,099	105.6
アジア	16,968	107.9
中国	16,072	166.5
報告セグメント計	122,238	115.9
その他	972	99.1
合計	123,211	115.8

(注) 1. 金額は販売価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

(2) 受注状況

当社グループは、主に、各納入先より生産計画の提示を受け、これに基づき当社グループの生産能力を勘案して、生産計画を立て見込生産を行っております。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前期比(%)
日本	56,862	110.4
米国	30,236	116.3
欧州	4,126	106.7
アジア	17,055	109.1
中国	15,242	158.9
報告セグメント計	123,523	115.9
その他	966	97.9
合計	124,490	115.7

(注) 1. 主な相手先の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
トヨタ自動車(株)	11,704	10.9	12,372	9.9

2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

当社グループに関する財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析内容は原則として連結財務諸表に基づいて分析した内容であります。

なお、本文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成30年6月27日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成しております。この連結財務諸表の作成に当たりましては、会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に与える見積りを必要とします。これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況」[注記事項]（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）に記載しておりますが、特に以下の重要な会計方針が、連結財務諸表作成における重要な見積りの判断に影響を及ぼすと考えております。

繰延税金資産の回収可能性の評価

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して、将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積り額が減少した場合は繰延税金資産が減額され、税金費用が計上される可能性があります。

退職給付費用及び債務の前提条件

当社グループは、退職給付費用及び債務を割引率、退職率、直近の統計数値に基づいて算出される死亡率、及び年金資産の長期期待運用収益率などに基づいて合理的に見積っております。これらの前提条件が変化した場合には、実際の結果が見積りと異なる可能性があります。また、その影響は累積され、将来にわたって定期的に認識されるため、費用及び債務に影響を及ぼす可能性があります。

固定資産の減損処理

当社グループが有する固定資産のうち、「固定資産の減損に係る会計基準」において対象とされるものについては、損益報告や経営計画などの企業内部の情報、経営環境や資産の市場価格などの企業外部の要因に関する情報に基づき、資産又は資産グループ別に減損の兆候の有無を確認し、企業環境の変化や経済事象の発生によりその帳簿価額の回収が懸念されているかなども考慮し、減損損失の認識を判定しております。

この判定により減損兆候を認識すべきと判断した場合には、その帳簿価額を回収可能価額まで減損処理を行っております。事業計画や経営・市場環境の変化により、回収可能価額が変更された場合には、減損損失の金額の増加又は新たな減損損失の認識の可能性があります。

(2) 財政状態の分析

資産

当連結会計年度末の総資産は、青島東洋熱交換器有限公司の連結子会社化及び売上増加等により、前期末比15,027百万円増加し、94,241百万円となりました。

流動資産は、前期末比14,054百万円増加し、51,652百万円となりました。

負債

流動負債は、前期末比11,176百万円増加し、35,642百万円となりました。

純資産

純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比4,253万円増加し、46,639万円となりました。

(3) 経営成績の分析

経営成績

「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析(1)業績」に記載のとおりであります。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

経営方針、経営戦略等、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

中期経営計画『T・RAD-10』の最終年度である平成30年3月期の達成状況は、次表のとおりです。

指標	平成30年3月期(計画)	平成30年3月期(実績)	計画比
売上高	120,000百万円	124,490百万円	4,490百万円増(3.7%増)
経常利益率	6.5%	5.2%	1.3%減

売上高については、計画値を達成しました。経常利益率については、仕損廃却費の大幅な低減や生産性の向上に取り組み、収益向上を目指してまいりましたが、計画値未達となりました。これをふまえ、次期中期計画において、生産性のさらなる向上等に取り組んでまいります。

(4) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの分析

第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 業績等の概要(2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要は、棚卸資産の仕入のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業経費であります。投資目的の資金需要の主なものは、設備投資によるものであります。

当連結会計年度における運転資金の主な財源は、自己資金であり、投資目的の資金需要の主な財源は、自己資金及び金融機関からの長期借入金となっております。

4【経営上の重要な契約等】

技術援助契約

契約会社名：株式会社ティラド（当社）

相手方の名称	契約内容	契約期間	対価
インドネシア PT. BATARASURA MULIA	ラジエータ製造に関する技術	自 2014年12月16日 至 2019年12月15日	一定料率のロイヤルティの受取
インド TATA TOYO RADIATOR Ltd.	ラジエータ製造に関する技術	自 2013年1月1日 至 2019年12月31日	一定料率のロイヤルティの受取
タイ TORC Co.,Ltd.	熱交換器製造に関する技術	自 2018年1月1日 至 2018年12月31日	一定料率のロイヤルティの受取

5【研究開発活動】

当連結会計年度の研究開発活動としましては、自動車・建設産業機械・燃料電池等の関連分野の新製品開発・改良開発に取り組むと共に、中長期的成長の基盤となる基礎研究にも努めてまいりました。

その主たる活動は日本で行っておりますが、日本以外では、これまでの米国やインドに加えて、昨年度より中国にも研究開発拠点を設置し、これにより日系及びローカルメーカーの要求を満足する製品をこれまで以上に強化した体制にて開発することで、さらなるビジネス拡大に貢献する事が可能となっております。

また、グローバル生産比率の増加とともに現地ニーズに合った製品開発を迅速に行うべく、海外メーカーとの取引の拡大も目指しております。

(1) 日本における研究開発活動

新製品開発と現有製品の改良開発

日本における研究開発活動では、主に環境・エネルギー関連に着目し環境対応自動車分野・建産機分野及び家庭用燃料電池分野における新製品の開発・改良開発に注力しております。

環境対応自動車分野におきましては、ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車等の車両電動化に対応した冷却システムの開発を進めております。ここには、従来の熱交換器の技術の他、先進的な当社独自の技術も盛り込み、高性能・小型軽量かつ低コストを実現してまいります。

建産機分野におきましては、これまでのように高性能かつ高強度の熱交換器の他、超大型機械に対応した熱交換器の開発も完了し、市場に投入することができました。

家庭用燃料電池分野におきましては、当社の熱交換器がデファクトスタンダードとなるべく、同分野の熱交換システムをけん引することができる製品の開発を進めております。

その他の分野を含めて、多種にわたる現有製品群の更なる高性能・小型軽量化及び低コストを目指した製品の開発を進めております。また、冷却系のモジュール化や機能の複合化等の他、リサイクル性に配慮した製品やエンジン排気ガス・燃費の改善に貢献する熱交換器の改良開発を日々続けております。

基礎研究

材料及び新加工の基礎研究、すなわち熱交換器用各種材料、表面処理やろう付け接合技術の研究を推進すると共に、コンピュータによる数値解析・基礎評価技術の向上に努め、開発の効率化を推進しております。さらに大学等外部機関への委託及び共同研究により将来の視点にたった研究を進めております。

平成30年3月31日現在の産業財産権の総数は275件であります。

(2) 当連結会計年度に支出した研究開発費は以下のとおりであります。

セグメントの名称	研究開発費（百万円）
日本	2,737
米国	33
欧州	44
アジア	12
合計	2,827

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度において、各種熱交換器製造販売事業を中心に、全体で5,975百万円の設備投資を実施しました。

生産設備を中心に、更新及び新規受注に対応するために、日本において、親会社単体で3,619百万円、米国において1,105百万円、欧州において433百万円、アジアにおいて495百万円、中国において198百万円、その他において122百万円を投資しました。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
秦野製作所 (神奈川県秦野市)	日本	ラジエータ 他 生産設備	1,124	1,210	421 (64)	9	197	2,963	425
名古屋製作所 (愛知県知多郡 東浦町)	日本	ラジエータ 他 生産設備	362	1,305	254 (34)	11	253	2,186	317
滋賀製作所 (滋賀県東近江市)	日本	ラジエータ 他 生産設備	737	2,538	229 (113)	-	360	3,866	463
研究開発センター (愛知県名古屋市他)	日本	研究開発 施設設備	416	340	300 (22)	-	72	1,130	234

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
東和運輸(株)	本社 (愛知県知多 郡東浦町)	その他	運送用車両 ・倉庫他	191	100	- (-)	55	10	358	110
東和興産(株)	戸川社宅他 (神奈川県 秦野市)	その他	厚生施設 設備他	161	12	455 (10)	-	5	634	8
アスニ(株)	貸倉庫 (神奈川県 秦野市)	その他	倉庫	20	2	63 (1)	-	0	87	3

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
T.RAD North America, Inc.	本社工場 (米国 ケン タッキー州)	米国	ラジエータ 他 生産設備	1,231	5,304	105 (188)	-	575	7,217	753
T.RAD (THAILAND) CO.,Ltd.	本社工場 (タイ チャ チェンサオ 県)	アジア	"	240	481	186 (29)	-	361	1,270	495
東洋熱交換器 (中山)有限 公司	本社工場 (中国 広東 省中山市)	中国	"	-	1,475	- (-)	-	21	1,496	384
T.RAD Czech s.r.o.	本社工場 (チェコ ウ ンホスト市)	欧州	"	632	976	355 (94)	-	78	2,043	145
PT. T.RAD INDONESIA	本社工場 (インドネシ ア ジャワ島 ブカシ市)	アジア	"	151	860	205 (30)	-	263	1,481	318
TRM LLC	本社工場 (ロシア ニ ジニノヴゴ ロド市)	欧州	"	87	67	1 (12)	-	38	194	69
東洋熱交換器 (常熟)有限 公司	本社工場 (中国 江蘇 省常熟市)	中国	"	590	484	- (-)	-	8	1,083	70
T.RAD (VIETNAM) CO.,Ltd.	本社工場 (ベトナム ハノイ市)	アジア	"	143	245	- (-)	-	14	404	110
Tripac International Inc.	本社工場 (米国 テキ サス州)	米国	"	-	43	- (-)	45	5	94	48
東洋(常熟) 熱交換研發中 心有限公司	本社工場 (中国 江蘇 省常熟市)	中国	研究開発 施設設備	-	-	- (-)	-	3	3	5
青島東洋熱交 換器有限公司	本社工場 (中国 山東 省青島市)	中国	ラジエータ 他 生産設備	409	826	- (-)	-	28	1,265	407

(注) 1. 帳簿価額には消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備として、以下のものがあります。

提出会社

設備の内容	年間賃借料又はリース料 (百万円)	区分
本社建物	39	賃借
合計	39	

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における設備の新設等に係る投資予定額は、7,920万円であります。

(1) 重要な設備の新設の計画は、以下のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメン トの名称	設備の内容	投資予定金額		着手及び完了予定	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着手	完了
当社 秦野製作所	神奈川県 秦野市	日本	ラジエータ等 生産設備	767	450	平成29年5月	平成31年3月
当社 名古屋製作所	愛知県 知多郡東浦町	日本	ラジエータ等 生産設備	672	118	平成29年9月	平成31年3月
当社 滋賀製作所	滋賀県 東近江市	日本	ラジエータ等 生産設備	1,336	394	平成29年5月	平成31年3月
T.RAD North America, Inc.	米国 ケンタッキー州	米国	ラジエータ等 生産設備	2,147	1,096	平成29年5月	平成30年12月
T.RAD(THAILAND) Co.,Ltd.	タイ チャチェンサオ県	アジア	ラジエータ等 生産設備	1,028	141	平成30年3月	平成30年12月
T.RAD Czech s.r.o.	チェコ ウンホスト市	欧州	ラジエータ等 生産設備	491	263	平成29年7月	平成30年12月
PT. T.RAD INDONESIA	インドネシア ジャワ島ブカシ市	アジア	ラジエータ等 生産設備	157	22	平成29年5月	平成30年12月
東洋熱交換器 (中山)有限公司	中国 広東省中山市	中国	ラジエータ等 生産設備	148	2	平成29年4月	平成30年12月
T.RAD(VIETNAM) Co.,Ltd.	ベトナム ハノイ市	アジア	ラジエータ等 生産設備	87	7	平成29年12月	平成30年12月

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等の予定はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	8,344,405	8,344,405	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	8,344,405	8,344,405	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日	75,099,652	8,344,405	-	8,545	-	7,306

(注) 株式併合(10株 1株)によるものであります。

(5)【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	33	29	119	112	10	5,339	5,642	-
所有株式数 (単元)	-	25,822	2,047	12,749	16,581	33	25,803	83,035	40,905
所有株式数の割合 (%)	-	31.10	2.47	15.35	19.97	0.04	31.07	100.00	-

(注) 自己株式384,514株は「個人その他」に3,845単元及び「単元未満株式の状況」に14株含まれております。

(6)【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	386	4.86
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	373	4.69
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	353	4.44
日本スタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	316	3.98
ティラド取引先持株会	東京都渋谷区代々木3丁目25-3	299	3.76
株式会社陣屋	神奈川県秦野市鶴巻北2丁目8-24	226	2.84
クリアストリーム バンキン グ エス エー (常任代理人 香港上海銀行東 京支店 カストディ業務部)	42, AVENUE JF KENNEDY, L-1855 LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	224	2.82
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	192	2.42
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	191	2.41
DFA INTL SMALL C AP VALUE PORTFO LIO (常任代理人 シティバンク、 エヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300, B EE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	189	2.38
計	-	2,754	34.60

(注) 1. 上記のほか、自己株式が384千株あります。

2. 株式会社みずほ銀行については、株主名簿上「みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社」となっておりますが、平成28年10月21日付の大量保有報告書により、実質的な所有者を記載しております。

3. 三井住友信託銀行株式会社から、平成30年3月22日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成30年3月15日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は、次のとおりであります。

氏名または名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4 番1号	455,900	5.46
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	140,700	1.69

4. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	386千株
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	316千株

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 384,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,919,000	79,190	-
単元未満株式	普通株式 40,905	-	-
発行済株式総数	8,344,405	-	-
総株主の議決権	-	79,190	-

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社ティラド	東京都渋谷区代々木 3丁目25-3	384,500	-	384,500	4.60
計	-	384,500	-	384,500	4.60

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	6,860	8,178,437
当期間における取得自己株式	9	35,275

- (注) 1. 平成29年6月28日開催の第115期定時株主総会決議により、平成30年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。当事業年度における取得自己株式6,860株の内訳は、株式併合前5,422株、株式併合後1,438株であります。
2. 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(株式併合による減少)	3,447,692	-	-	-
保有自己株式数	384,514	-	384,523	-

- (注) 1. 平成29年6月28日開催の第115期定時株主総会決議により、平成30年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。
2. 当期間における保有自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、利益還元を最重要政策として位置付けており、企業体質の改善、経営基盤の強化を図りながら、業績に裏付けられた成果の配分を実施することを基本方針としております。

また、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととしており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき、期末配当については、1株あたり60円（1株あたり年間配当金63円）とさせていただきます。

内部留保資金につきましては、環境貢献商品の開発及びグローバル戦略の展開を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の金額 (百万円)	1株あたり配当額 (円)
平成29年11月6日 取締役会決議	238	3
平成30年6月27日 定時株主総会決議	477	60

(注) 1株当たり年間配当額63円は、中間配当額3円と期末配当額60円の合計となります。なお、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合しておりますので、中間配当額3円は株式併合前の金額、期末配当額60円は株式併合後の金額となります。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第112期	第113期	第114期	第115期	第116期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	430	307	264	350	4,715 (468)
最低(円)	229	231	151	157	3,830 (330)

(注) 1. 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2. 平成29年6月28日開催の第115期定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で株式併合（10株を1株に併合）を実施いたしました。第116期の株価については、株式併合後の最高・最低株価を記載し、株式併合前の最高・最低株価は()にて記載しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	4,715	4,685	4,255	4,230	4,245	4,150
最低(円)	4,355	4,655	3,905	4,100	3,830	4,040

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性11名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期 (注4)	所有株式 数 (百株)
代表取締役 会長 (CEO)		嘉納 裕躬	昭和20年10月24日生	昭和45年4月 当社入社 平成12年6月 同 取締役 CoPAR Inc. (現T.RAD North America, Inc.) 取締役社長 兼 北米営業部長 平成14年6月 同 常務取締役 米国・欧州事業担当 平成20年4月 同 代表取締役社長 平成30年6月 同 代表取締役会長 (CEO) (現任)	D	214百株
代表取締役 社長執行役 員 (COO)		宮崎 富夫	昭和52年9月16日生	平成14年4月 本田技研工業株式会社 入社 平成14年8月 株式会社本田技術研究所 和光 基礎技術研究センター 入社 平成21年10月 株式会社陣屋 入社 平成21年10月 株式会社陣屋 代表取締役 平成24年4月 株式会社陣屋コネクト 創業 平成24年4月 株式会社陣屋コネクト 代表取締役 平成26年6月 当社 社外取締役 平成29年6月 同 取締役 経営企画担当 平成30年6月 同 代表取締役社長執行役員 (COO) (現任)	D	4百株
取締役専務 執行役員	海外事業担当 営業・技術管掌 兼 営業・技術本部長	百瀬 芳孝	昭和32年12月7日生	昭和56年4月 当社入社 平成13年10月 同 名古屋製作所 工場管理室長 平成14年7月 同 秦野製作所 工場管理室長 平成15年11月 同 秦野製作所 生産部長 兼 工場管理室長 平成18年6月 同 執行役員 T.RAD Czech s.r.o 取締役社長 平成20年7月 同 常務執行役員 平成21年6月 同 常務取締役 平成30年6月 同 取締役専務執行役員 海外事業担当 営業・技術管掌 兼 営業・技術本部長 (現任)	D	87百株
取締役常務 執行役員	品質・調達担当 兼 調達本部長 兼 東洋熱交換器 (中 山) 有限公司取締役董 事長 兼 東洋熱交換器 (常 熟) 有限公司取締役董 事長	山崎 徹	昭和32年9月28日生	昭和56年4月 当社入社 平成15年4月 同 商品開発センター[秦野駐在] 部長 平成20年6月 同 秦野製作所長 兼 生産管理部長 平成23年4月 同 滋賀製作所長 兼 品質管理部長 平成23年7月 同 執行役員 平成27年6月 同 取締役 平成30年6月 取締役常務執行役員 品質・調達担当 兼 調達本部長 (現任)	D	49百株

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期 (注4)	所有株式 数 (百株)
取締役常務 執行役員	生産・TPS・TPM担当 兼 生産本部長 兼 生産技術センター 所長	鈴木 潔	昭和34年2月25日生	昭和57年4月 当社入社 平成15年4月 同 秦野製作所 生産部長 平成16年9月 TATA TOYO RADIATOR LIMITED 主管 平成19年9月 T.RAD North America, Inc. 主管 平成22年4月 当社秦野製作所 生産部 主管 平成23年4月 同 名古屋製作所 生産部長 平成24年7月 同 秦野製作所 所長 平成29年4月 同 執行役員 平成30年6月 同 取締役常務執行役員 生産・TPS・TPM担当 兼 生産本部長 兼 生産技術センター所長(現任)	D	12百株
取締役		清水 浩	昭和22年9月11日生	昭和51年6月 国立公害研究所(現環境研究所) 入所 平成9年4月 慶応義塾大学 教授 平成25年4月 慶応義塾大学名誉教授(現任) 平成25年9月 株式会社e-Gle 代表取締役社長 (現任) 平成29年6月 当社 社外取締役(現任)	D	-
取締役		亀井 洋一	昭和31年10月16日生	平成12年10月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 平成12年10月 あさひ法律事務所 入所 平成19年1月 あさひ法律事務所パートナー就任 (現任) 平成29年6月 当社 社外取締役(現任)	D	-
常勤監査役		渡辺 博	昭和30年8月16日生	昭和54年4月 当社入社 平成14年4月 同 商品開発センター[名古屋駐在] 部長 平成16年6月 同 商品開発センター 副所長 兼 商品開発センター[名古屋駐在] 部長 平成21年1月 同 資材部長 平成24年9月 同 第二調達部長 平成26年4月 同 第二調達部長 兼 グローバル調達企画部長 平成27年6月 同 生産本部長付 平成27年6月 同 常勤監査役(現任)	A	20百株
常勤監査役		島田 晃一	昭和31年9月17日生	昭和54年4月 当社入社 平成17年4月 Tesio Radiatori S.p.A. 主管 平成20年3月 同 人事部長 平成22年4月 同 人事・総務部長 平成27年4月 同 執行役員 兼 人事・総務部長 兼 社長室長 平成30年6月 同 常勤監査役(現任)	C	31百株
監査役		勝田 正文	昭和25年3月9日生	昭和52年 東京電機大学工学部助手 昭和57年 早稲田大学理工学部機械工 学科専任講師 昭和59年 同 助教授 昭和60年 UC Berkeley・NPS Adjunct Research Professor 平成元年 早稲田大学教授(現任) 平成18年6月 当社 社外監査役(現任)	C	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期 (注4)	所有株式 数 (百株)
監査役		大庭 康孝	昭和24年3月28日生	昭和51年3月 公認会計士登録 昭和51年8月 税理士登録 昭和56年7月 公認会計士大庭事務所所長 (現任) 平成20年6月 当社 社外監査役(現任)	B	-
計						417

- (注) 1. 取締役のうち、清水浩氏と亀井洋一氏は社外取締役であります。
2. 監査役のうち、勝田正文氏と大庭康孝氏は社外監査役であります。
3. 当社は、業容の拡大に伴い、経営監視機能と業務遂行機能を分離するため、執行役員制度を導入しております。執行役員は下記の通り7名となっております。
- | | | |
|--------|-------|----------------------------------|
| 常務執行役員 | 金井 典夫 | 経理・財務・J-SOX担当 兼 経理・財務部長 |
| 執行役員 | 中野 公昭 | 営業・技術本部 副本部長(技術担当) |
| 執行役員 | 大島 清和 | 内部監査室長 |
| 執行役員 | 渋谷 治信 | 品質保証担当 |
| 執行役員 | 堀田 靖 | 経営企画・IT推進業務改革室・ISO・環境担当 兼 経営企画室長 |
| 執行役員 | 田村 恒生 | 人事・総務・関連事業担当 兼 人事・総務部長 兼 社長室長 |
| 執行役員 | 菊山 辰也 | 営業・技術本部 副本部長(営業担当) |
4. 任期については以下の通りであります。
- A 平成27年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- B 平成28年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- C 平成30年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- D 平成30年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、投資家をはじめとした株主の皆様、お客様、仕入先様等から信頼され、評価されるため、企業価値を高めつつ、持続的な発展を図ることを経営目標としております。また、企業価値を高めるために、経営管理体制を整えるとともに企業経営に関する監査、監督機能の充実、経営活動の透明性の向上に努め、特に企業文化としてのコンプライアンスの定着を優先課題と捉えて、コーポレート・ガバナンス充実のための種々の施策を積極的に実施しております。

コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

イ．企業統治の体制

当社は、監査役制度を採用し監査役会を設置しております。監査役会は、常勤監査役2名および社外監査役2名で構成されており、取締役の職務執行ならびに当社および国内外の子会社の業務や財産状況を監査しております。また、取締役会、経営会議を定期的開催し、経営に関する重要事項の審議を行なうと共に、経営の効率化を図っております。

平成18年6月に成立した金融商品取引法第24条の4の4「財務計算に関する書類その他の情報の適正性を確保するための体制の評価」（所謂J-SOX法）は、当社の場合、平成21年3月期から適用されました。内部統制の構築に当たる経営者以下の責任者および全社的な管理体制など経営者が定めるべき基本方針についても、平成20年3月の取締役会において決議され、財務報告の信頼性の確保に努めております。

常勤監査役に加え、社外監査役2名による監査を実施することにより、経営の監視機能が十分に機能する体制となっていると考え、当該体制を選択しております。

また、平成26年6月26日の当社第112期株主総会におきまして企業統治の体制強化を図るため新たに社外取締役を導入いたしました。その員数は現在2名であります。

なお、内部統制システムの整備の状況は次の通りです。

(ア) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合するための体制

- ・ 当社の取締役および従業員が、社会の一員として社会的責任を果し、信頼される企業となるために「法令遵守規定」を制定しており、法令・企業倫理および社内規定遵守の観点から適切な日常行動を取り続けるよう教育・研修を通じ徹底を図っております。
- ・ CSR統括室を設置し、企業責任を保証出来る体制を構築し、またコンプライアンスに関する社内報告・相談体制のひとつの手段として「投書箱」を設置しており、法令違反やコンプライアンスに関する問題の早期発見と解決を図っています。
- ・ 内部監査を行う専任部門として業務執行部門から独立した内部監査室を設置し、専任者を置き、内部監査規定を定め、内部監査マニュアルを作成し、社内業務が法令・社内規定等に準拠しているかどうかを検証しております。なお、内部監査室は社長直轄とし、監査役とも定期的に会合を持ち、問題についての意見交換を行い、またCSR統括室とも共同調査を行うなど、内部統制部門間での緊密な連携を図っております。

(イ) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する事項

- ・ 取締役会等経営に係る諸会議の議事録や重要な情報、および当社の株主、顧客、仕入先などのステークホルダーに関する重要情報については、その保護の観点から「重要情報管理要領」に従い情報漏洩の未然防止を図ります。当社は、取締役会、経営会議を定期的開催し、経営に関する重要事項の審議を行うと共に、経営の効率化を図っております。
- ・ 職務の執行に係る重要な文書（電磁的媒体も含む）は「文書管理規定」の見直しを行い、その定める方法により、整理、保管、保存またその廃棄を行います。

(ウ) 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- ・ 「リスクマネジメント基本規定」を定めており、自然災害や火災等のみならず会社の存続に係る重要なリスクを適切に認識し評価した上で、それらリスクを適切に管理するための管理体制を構築しております。
- ・ 自然災害や火災等の危機発生時の危機管理体制については、会社の事業継続を図る観点から「TRAD事業継続計画書」「危機管理基本要領」を定めており、それらの規定等により、危機発生時の対応を適切に図ります。なお、規定等は随時、新設・改定を行うものとします。
- ・ 内部監査室は、必要によりリスク管理体制の有効性・効率性について検証を行っております。

(エ) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・ 「取締役会規定」に基づき、取締役会は原則として毎月1回開催し、経営の基本方針、法令で定められている事項やその他経営に関する重要事項の審議を行っております。なお、経営監視機能と職務執行機能を分離するため、執行役員制度を導入し、取締役会は、基本方針の経営意思決定と業務の執行を監督する機能として位置づけております。また、機動的な経営意思決定に資することを目的とし、全社重要方針や施策の実施、および経営管理に必要な情報の報告を行うための会議体として毎月1回経営会議を開催し経営効率の向上を図っております。

(オ) 株式会社並びにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ・当社取締役等から構成される「グローバル会議」を年2回以上開催し、国内・海外の業績実績の報告・評価および計画の承認が行われる体制をとっています。
- ・当社グループ全体が社会的責任を果し信頼されるグループとなるため、グループ全体に適用される行動指針として、「株式会社ティラド企業行動理念」を定め、グループ全体での共有・浸透を図っております。
- ・「グループ会社管理規定」および「グループ会社管理決裁権限要領」を定めており、それに基づき子会社の経営管理を行い、業務の適正性の確保を図ります。
- ・内部監査室は、必要に応じ子会社各社の担当部署と連携し子会社各社業務の法令・規定等に関する準拠性、および業務の有効性・効率性の検証を行います。
- ・当社は、当社グループの業務の適正を確保するため、重要な子会社に対し以下の体制の構築を求め、そのために必要な指導・助言を行います。
 - (i) 各子会社は、リスク管理に関する基本方針を定め、リスクに応じ適切な情報伝達と緊急体制を整備します。また、各子会社は、大規模地震、火災等の自然災害に備えた事業継続、緊急事態対応および防災訓練等に関する規定を定め、危機発生時の対応を適切に行います。
 - (ii) 各子会社は、「行動倫理規定」を定め、法令および企業倫理・社内規定を遵守して適切な行動をとるように教育・研修を行い、コンプライアンスについて周知徹底を図ります。また、各子会社は、各社に応じた内部監査制度、内部通報制度等を構築してコンプライアンスを確保し、これに反する事態が生じたときは適切な是正措置をとります。
 - (iii) 各子会社は、それぞれ職務権限規程、決裁規定等を整備し、意思決定や業務執行の透明化と効率化を図ります。また、各子会社は、当社の経営方針や中期計画、これらに基づいて作成された年度方針の進捗状況をチェックできる体制を整備し、各子会社の代表取締役は定期的にレビューを行います。
 - (iv) 各子会社は、重要情報管理要領を制定し、各子会社の運営に係る諸会議の議事録その他の記録や重要な情報（各子会社のステークホルダーに関する重要情報を含む）を適切に管理し、情報漏洩等を未然に防止します。
- ・当社は、グループ会社管理規定に基づき、子会社の自主性を尊重しつつ、事業の状況に関する定期的な報告を受けるとともに、重要事項についての事前協議を行います。
- ・子会社において、不正の行為、法令・定款もしくは社内規定に反する重大な事実、その他当該子会社または当社グループに重大な損害が発生するおそれがある事実が発見された場合、子会社の役員または従業員は、ただちに当社に報告し、また報告を受けた者は、ただちにその事実を監査役に報告する制度を整備します。
- ・各子会社は、前項の報告をした子会社の役員または従業員が、それによって不利益を受けることがないように通報制度を整備します。
- (カ) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制
 - ・監査役が求めた場合、監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くこととし、その必要性および人事については取締役と監査役が協議して決定します。なお、現段階においては、監査役の職務を補助すべき使用人はおりません。
- (キ) 監査役職務を補佐すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項
 - ・監査役補助者は、業務の執行に係る職務を兼務しないものとします。
 - ・監査役補助者の異動等人事に関する事項については、監査役と事前に協議するものとします。
- (ク) 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制
 - ・取締役は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときは法令に従い、直ちに監査役に報告します。また、監査役はいつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して、報告を求めることができます。
 - ・監査役に報告した者については、異動、人事評価および懲戒等において、通報の事実を理由に不利益な取扱いはできないこととします。
 - ・監査役は、取締役会に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握します。
- (ケ) その他監査役職務の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - ・監査役は、実効的な監査を行うため、内部統制システムの整備等に密接に関連する部署である内部監査室やCSR統括室と十分な連携を図るものとします。
 - ・社外監査役大庭康孝氏は、公認会計士であり、財務・会計に関する知見を有する監査役であります。

(コ)取締役の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保する体制 運用状況の概要

・職務執行の効率性の確保のための取り組み

当社は、取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、上記取締役会を毎月1回開催しています。さらに、機動的な経営意思決定のため、当社取締役および幹部職員をメンバーとする経営会議を毎月1回開催しています。

方針やその他業務の進捗、展開状況については、約3か月に1回、当社取締役を評価者として、業務のレビューを実施し、方針等が適切に進捗しているかの確認を行っています。

・子会社における業務の適正を確保するための取り組み

当社では、子会社における業務が適正に行われることを確保するため、当社の内部監査部門が中心となって監査を実施してガバナンス体制の検証および見直しを行い、体制の整備を行っております。

・コンプライアンスに対する取り組み

当社の取締役および使用人に向けてコンプライアンスの重要性に関するメッセージを発信すると共に、コンプライアンス研修やモニタリングを実施するなど、コンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

また、コンプライアンス推進の為に会議体を通じて、全体への周知事項の徹底や、改善項目の討議、規定・要領の改定検討など、関連する様々な案件を議論し、意識向上と体制づくりを進めています。

・監査役監査の実効性の確保のための取り組み

当社の監査役は、当社の取締役会に出席し、重要案件についての報告を受けているほか、取締役および使用人から聴取を行うなど、業務の執行状況を直接的に確認しています。

ロ．内部監査および監査役監査の状況

当社は、内部監査を行う専任部門として業務執行部門から独立した内部監査室（現在3名）を設置し、社内業務が法令および社内規定等に準拠しているかどうかを監査しております。

監査役は、原則として毎月開催される取締役会に出席し、経営に関する重要事項について、取締役からの報告を受け、監査役としての意見を積極的に述べるなど、経営者からの独立性を保持しつつ、積極的に業務執行の監視活動を行っております。

監査役監査と会計・内部統制監査の相互連携に関しましては、定期的な監査報告を受けるほか、必要に応じて監査役と会計監査人との情報交換および協議の場を持っております。

ハ．会計監査の状況

会計監査人と致しましては、新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し、会計および内部統制に関する監査を公正且つ独立した立場から監査を受けております。

なお、会計・内部統制監査を実施した監査人は、向出勇治氏、松本雄一氏であり、新日本有限責任監査法人に所属しております。また、当社の会計監査に係る補助者は、公認会計士7名、その他13名であります。

二．社外取締役

(ア)社外取締役の員数および社外取締役と当社の関係

当社の社外取締役は2名であります。社外取締役清水浩氏と当社との間に人的関係、資本的関係、その他の利害関係はありません。社外取締役亀井洋一氏と当社の間には顧問契約があり、所属事務所所定の顧問料を支払っております。両氏は一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立性のある社外取締役であります。

(イ)社外取締役が当社の企業統治において果たす役割

当社の社外取締役である清水浩氏は、大学教授、工学博士としての豊富な専門知識と経験に基づき、客観的な視点から提言をすることにより、適切な業務執行の監督（経営監視）を行います。

亀井洋一氏は、長年にわたる弁護士としての豊富な経験と高い見識に基づき、客観的な視点から提言をすることにより、適切な業務執行の監督（経営監視）を行います。

ホ．社外監査役

(ア) 社外監査役の員数および社外監査役と当社の関係

当社の社外監査役は2名であります。いずれも当社との間に人的関係、資本的關係、その他の利害關係はありません。また、当社の役員・従業員出身者ではないため、人的關係その他に配慮することなく、独立した公正な監査を実施する機能を有すると考えております。

(イ) 社外監査役が当社の企業統治において果たす機能および役割

当社の社外監査役である勝田正文氏は、大学教授の立場から機械工学の専門家としての識見をもって、とりわけ技術面における意見を述べております。勝田正文氏は早稲田大学教授を兼務しておりますが、当社と早稲田大学の間には特別な利害關係はなく、一般株主との利益相反が生じるおそれがないことから、独立性のある役員と位置付けております。

大庭康孝氏は、公認会計士の立場から会計の専門家としての識見をもって、とりわけ会計面における意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適切性を確保するための助言提言を行っております。大庭康孝氏は、公認会計士大庭事務所および株式会社大庭マネジメントコンサルタンツの代表取締役を兼務しておりますが、当社と公認会計士大庭事務所および株式会社大庭マネジメントコンサルタンツとの間に特別な利害關係はなく、一般株主との利益相反が生じるおそれがないことから、独立性のある役員と位置付けております。

(ウ) 社外監査役の選任状況に関する当社の考え方

当社は、社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準および方針は定めておりませんが、選任にあたっては東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。また、専門的な識見に基づく公正な監査を実施する機能と役割が期待され、一般株主と利益相反が生じる恐れがないことを基本的考えとしております。社外監査役勝田正文氏および大庭康孝氏は、東京証券取引所が定める独立役員として同取引所に届け出しております。

(エ) 社外監査役による監督または監査と内部監査、監査役監査および会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、監査役会にて各監査役の報告を受けるとともに、定期および必要に応じて内部監査室や会計監査人と問題についての意見交換を行い、効率的に客観的監査が行えるように連携を図っております。なお、内部監査室は社長直轄とし、社外監査役との定期的会合・問題についての意見交換を行うことその他、CSR統括室とも共同調査を行うなど、内部統制部門間での緊密な連携を図っております。

ヘ．役員報酬の内容

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	226	127	-	96	2	6
監査役 (社外監査役を除く)	25	25	-	-	-	2
社外役員	23	23	-	-	-	4

・平成27年12月21日開催の取締役会の決議により、取締役に対し、株主総会で決定された取締役の報酬等の上限額(平成29年6月28日開催の定時株主総会決議にもとづく年額350百万円以内(うち社外取締役分年額20百万円以内))の範囲内で、当社の連結経常利益(「連結財務諸表の用語、様式および作成方法に関する規則」による)に連動する役員賞与を支給することとしており、支給額は、以下の要領に基づき算定しております。

< 利益連動役員賞与の要領 >

- a. 取締役を支給する利益連動役員賞与の総額は、当社の連結経常利益の1.5%とするが、1億円を超えないものとする。
- b. 各取締役への個別支給額は、上記a.に基づき計算された総額を取締役の役位毎に定めた下記ポイントに応じた按分した金額（1,000円未満四捨五入）とする。

$$\text{個別支給額} = \text{役員賞与総額} \times \text{各取締役のポイント} \div \text{取締役のポイント合計}$$

代表取締役	専務取締役	常務取締役	取締役 (社外取締役を除く)
26	16	14	10

ト．株式の保有状況

(ア)投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

18銘柄 6,257百万円

(イ)保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	556,000	3,359	取引関係の維持・強化
KYB(株)	2,054,000	1,191	取引関係の維持・強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	147,600	569	取引関係の維持・強化
(株)大気社	193,800	527	取引関係の維持・強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,488,260	303	取引関係の維持・強化
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	422,000	295	取引関係の維持・強化
スズキ(株)	42,000	194	取引関係の維持・強化
本田技研工業(株)	39,624	132	取引関係の維持・強化
岡谷鋼機(株)	12,600	99	取引関係の維持・強化
高周波熱錬(株)	20,400	18	取引関係の維持・強化
井関農機(株)	73,200	16	取引関係の維持・強化
サンデンホールディングス(株)	15,000	5	取引関係の維持・強化

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	556,000	3,794	取引関係の維持・強化
KYB(株)	205,400	1,037	取引関係の維持・強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	147,600	635	取引関係の維持・強化
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	422,000	294	取引関係の維持・強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,488,260	284	取引関係の維持・強化
岡谷鋼機(株)	12,600	151	取引関係の維持・強化
高周波熱錬(株)	20,400	22	取引関係の維持・強化
井関農機(株)	7,000	14	取引関係の維持・強化

(ウ)保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

責任限定契約の内容と概要

当社は、平成26年6月26日第112期の株主総会での決議により社外取締役および社外監査役との間において、会社法第427条第1項の規定に基づき同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結いたします。当契約に基づく損害の賠償限度額について社外取締役は法令が定める最低限度額、社外監査役も法令が定める最低限度額となります。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役・社外監査役とも責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

自己株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会を円滑に行うことを目的とするため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議方法

取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

中間配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

(2)【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	45	-	46	-
連結子会社	4	-	4	3
計	49	-	50	3

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社である東洋熱交換器(中山)有限公司、PT. T.RAD INDONESIAは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているERNST & YOUNGに対して、合計4百万円の監査証明業務に基づく報酬を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社である東洋熱交換器(中山)有限公司、PT. T.RAD INDONESIAは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているERNST & YOUNGに対して、合計4百万円の監査証明業務に基づく報酬を支払っております。

併せて、当社の連結子会社である東洋熱交換器(中山)有限公司、PT. T.RAD INDONESIAは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているERNST & YOUNGに対して、合計3百万円の非監査業務に基づく報酬を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査工数をふまえた監査公認会計士等よりの見積りを基に、同等規模の他社動向なども勘案し、決定しております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は適正な連結財務諸表等の作成を行うための特段の取組みを行っています。当社では会計基準等の内容及び変更等について適切に把握し、対応できる体制を整備するため、セミナー等へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 6,025	2 12,128
受取手形及び売掛金	19,198	3 24,928
電子記録債権	2,461	3 2,659
有価証券	499	399
商品及び製品	1,889	2,728
仕掛品	514	594
原材料及び貯蔵品	4,180	5,097
繰延税金資産	652	947
その他	2,260	2,253
貸倒引当金	83	85
流動資産合計	37,598	51,652
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,931	19,934
減価償却累計額	12,605	13,406
建物及び構築物（純額）	6,326	6,528
機械装置及び運搬具	45,045	49,359
減価償却累計額	29,130	33,072
機械装置及び運搬具（純額）	15,914	16,287
土地	2,541	2,602
リース資産	789	805
減価償却累計額	657	683
リース資産（純額）	131	122
建設仮勘定	2,461	3,476
その他	27,097	27,417
減価償却累計額	24,867	25,180
その他（純額）	2,230	2,236
有形固定資産合計	29,607	31,254
無形固定資産		
のれん	225	583
その他	734	1,068
無形固定資産合計	959	1,651
投資その他の資産		
投資有価証券	1 8,762	1 8,470
退職給付に係る資産	212	467
繰延税金資産	196	31
その他	1 1,904	1 741
貸倒引当金	28	28
投資その他の資産合計	11,047	9,682
固定資産合計	41,615	42,588
資産合計	79,213	94,241

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 9,745	2 14,086
電子記録債務	2,949	3 4,703
短期借入金	5,178	7,646
リース債務	572	378
未払法人税等	539	563
未払費用	2 2,205	2 3,289
賞与引当金	1,276	1,468
役員賞与引当金	53	96
製品保証引当金	104	206
株主優待引当金	41	62
営業外電子記録債務	352	3 757
その他	1,448	2,384
流動負債合計	24,465	35,642
固定負債		
長期借入金	9,473	8,582
リース債務	631	735
繰延税金負債	1,977	2,400
役員退職慰労引当金	2	4
退職給付に係る負債	81	95
資産除去債務	89	89
その他	106	51
固定負債合計	12,362	11,959
負債合計	36,827	47,601
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,545	8,545
資本剰余金	7,473	7,434
利益剰余金	24,162	27,376
自己株式	891	899
株主資本合計	39,289	42,457
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,148	1,047
為替換算調整勘定	550	679
退職給付に係る調整累計額	496	677
その他の包括利益累計額合計	2,195	2,404
非支配株主持分	900	1,777
純資産合計	42,385	46,639
負債純資産合計	79,213	94,241

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	107,608	124,490
売上原価	# 1, # 7 95,944	# 1, # 7 108,543
売上総利益	11,664	15,946
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	1,149	1,498
製品保証引当金繰入額	66	98
役員報酬	202	201
給料及び手当	1,979	2,001
賞与引当金繰入額	247	338
役員賞与引当金繰入額	53	96
役員退職慰労引当金繰入額	1	2
退職給付費用	89	79
福利厚生費	957	1,059
減価償却費	291	304
賃借料	261	315
旅費交通費及び通信費	452	516
研究開発費	# 1 1,084	# 1 1,255
交際費	86	95
株主優待引当金繰入額	40	65
貸倒引当金繰入額	5	8
支払手数料	359	358
雑費	1,079	1,769
のれん償却額	39	89
販売費及び一般管理費合計	8,447	10,153
営業利益	3,216	5,792
営業外収益		
受取利息	70	80
受取配当金	215	208
持分法による投資利益	387	337
その他	180	277
営業外収益合計	853	904
営業外費用		
支払利息	236	212
為替差損	276	29
貸倒損失	0	-
その他	12	10
営業外費用合計	525	251
経常利益	3,544	6,445

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	# 2 16	# 2 11
投資有価証券売却益	333	641
新株予約権戻入益	37	-
段階取得に係る差益	-	607
特別利益合計	388	1,261
特別損失		
固定資産除却損	# 3 142	# 3 108
固定資産売却損	# 4 24	# 4 4
減損損失	# 5 354	# 5 28
ゴルフ会員権評価損	0	-
課徴金等	# 6 592	# 6 1,998
特別損失合計	1,115	2,139
税金等調整前当期純利益	2,817	5,567
法人税、住民税及び事業税	1,013	1,459
法人税等調整額	303	158
法人税等合計	710	1,617
当期純利益	2,107	3,949
非支配株主に帰属する当期純利益	84	257
親会社株主に帰属する当期純利益	2,022	3,691

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	2,107	3,949
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	453	101
為替換算調整勘定	967	359
退職給付に係る調整額	140	180
持分法適用会社に対する持分相当額	147	199
その他の包括利益合計	1,520	1,239
包括利益	1,586	4,189
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,575	3,900
非支配株主に係る包括利益	10	288

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	8,545	7,473	22,625	405	38,238
当期変動額					
剰余金の配当			485		485
親会社株主に帰属する当期純利益			2,022		2,022
自己株式の取得				485	485
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,537	485	1,051
当期末残高	8,545	7,473	24,162	891	39,289

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	695	1,590	356	2,642	37	936	41,855
当期変動額							
剰余金の配当							485
親会社株主に帰属する当期純利益							2,022
自己株式の取得							485
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	453	1,040	140	446	37	36	520
当期変動額合計	453	1,040	140	446	37	36	530
当期末残高	1,148	550	496	2,195	-	900	42,385

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	8,545	7,473	24,162	891	39,289
当期変動額					
剰余金の配当			477		477
親会社株主に帰属する当期純利益			3,691		3,691
自己株式の取得				8	8
自己株式の処分		0		0	0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		38			38
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	38	3,214	8	3,167
当期末残高	8,545	7,434	27,376	899	42,457

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,148	550	496	2,195	900	42,385
当期変動額						
剰余金の配当						477
親会社株主に帰属する当期純利益						3,691
自己株式の取得						8
自己株式の処分						0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						38
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	101	129	180	208	877	1,086
当期変動額合計	101	129	180	208	877	4,253
当期末残高	1,047	679	677	2,404	1,777	46,639

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,817	5,567
減価償却費	5,683	5,550
減損損失	354	28
退職給付費用	33	44
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	101	64
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	1	2
貸倒引当金の増減額（は減少）	5	29
賞与引当金の増減額（は減少）	78	191
役員賞与引当金の増減額（は減少）	31	43
製品保証引当金の増減額（は減少）	100	35
株主優待引当金の増減額（は減少）	1	20
固定資産除却損	142	108
固定資産売却損益（は益）	7	7
有価証券売却損益（は益）	333	641
課徴金等	592	1,998
受取利息及び受取配当金	285	289
支払利息	236	212
為替差損益（は益）	63	60
持分法による投資損益（は益）	387	337
投資事業組合運用損益（は益）	0	0
売上債権の増減額（は増加）	1,822	2,978
たな卸資産の増減額（は増加）	346	679
仕入債務の増減額（は減少）	123	3,258
段階取得に係る差損益（は益）	-	607
その他の流動資産の増減額（は増加）	497	38
その他の流動負債の増減額（は減少）	715	378
その他	23	76
小計	7,748	11,828
利息及び配当金の受取額	505	365
利息の支払額	236	213
法人税等の支払額	830	1,364
課徴金等の支払額	493	1,412
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,693	9,202

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	30	19
定期預金の預入による支出	124	276
有形固定資産の取得による支出	6,099	5,352
有形固定資産の売却による収入	74	147
無形固定資産の取得による支出	217	247
投資有価証券の取得による支出	0	14
投資有価証券の売却による収入	602	990
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	* 2 247
貸付けによる支出	0	-
その他	40	63
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,775	4,422
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	2,320	714
長期借入れによる収入	5,904	1,658
長期借入金の返済による支出	3,092	923
非支配株主からの払込みによる収入	1	1
自己株式の取得による支出	485	8
配当金の支払額	485	477
非支配株主への配当金の支払額	142	106
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	29
その他	804	78
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,425	749
現金及び現金同等物に係る換算差額	177	220
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	684	5,749
現金及び現金同等物の期首残高	6,760	6,216
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	140	-
現金及び現金同等物の期末残高	* 1 6,216	* 1 11,965

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 17社

主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

なお、当連結会計年度からT.RAD Sales Europe GmbH及び青島東洋熱交換器有限公司を連結の範囲に含めております。T.RAD Sales Europe GmbHについては、当連結会計年度において新たに出資したことにより、青島東洋熱交換器有限公司については、当連結会計年度において株式を追加取得したことにより、当連結会計年度より連結の範囲に含めることとしたものであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 2社

主要な会社名

TORC Co.,Ltd.

TATA TOYO RADIATOR Ltd.

なお、当連結会計年度において、持分法適用関連会社であった青島東洋熱交換器有限公司の株式を追加取得し子会社化したため、持分適用の範囲から除外しております。

(2) 持分法の適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度にかかわる財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、在外連結子会社14社の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、連結子会社のうち、アスニ(株)、東和運輸(株)及び東和興産(株)の決算日は、連結会計年度の3月31日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)

時価のないもの

総平均法による原価法

デリバティブ

時価法を採用しております。

たな卸資産

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により、また、在外連結子会社は主として先入先出法による低価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として定率法によっております。

なお、主な耐用年数については次の通りであります。

建物及び構築物 3~60年

機械装置及び運搬具 2~17年

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、法人税法の規定に基づき3年間で均等償却する方法を採用しております。

在外連結子会社は主として定額法によっております。

無形固定資産(リース資産を除く)

当社及び連結子会社は定額法を採用しております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金

売掛債権及びその他の債権について貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与に充てるため、支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与に備えて、支給見込額のうち、当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

製品保証引当金

製品のアフターサービスに対する支出に備えるため、過去の実績を基礎にして発生見込額を計上しております。

株主優待引当金

株主優待制度に伴う支出に備えるため、過去の使用実績率等に基づき、発生見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

一部の連結子会社は、取締役の退職慰労金の支出に備えて、主として内規に基づく期末要支給額を残高基準として計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、ポイント基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理により会計処理を行っております。なお、親会社においては、為替予約の付されている外貨建金銭債権については振当処理を行っております。また、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約、ヘッジ対象：外貨建売掛金

ヘッジ手段：金利スワップ取引、ヘッジ対象：借入金

ヘッジ方針

主として親会社は、外貨建取引の為替相場の変動リスクを軽減する目的で為替予約取引を行っております。また、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

ヘッジの有効性評価の方法

為替予約取引について、通貨種別・期日・金額の同一性を確認することにより、行っております。

また、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

(6) のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、その効果の発現する期間を合理的に見積り、当該期間において均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

連結納税制度の適用

当社及び国内連結子会社は、連結納税制度を適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,984百万円	2,172百万円
投資その他の資産(その他)(出資金)	1,133	-
計	3,117	2,172

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
現金及び預金	18百万円	350百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
支払手形	- 百万円	350百万円
未払費用	12	-
計	12	350

3 連結会計年度末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務

連結会計年度末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 百万円	31百万円
電子記録債権	-	206
電子記録債務	-	1,134
営業外電子記録債務	-	211

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費及び売上原価に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	2,659百万円	2,827百万円

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	- 百万円	0百万円
機械装置及び運搬具	4	2
建設仮勘定	2	-
その他	9	8
計	16	11

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	12百万円	28百万円
機械装置及び運搬具	102	69
建設仮勘定	21	1
その他	5	8
計	142	108

4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	19百万円	3百万円
建設仮勘定	5	-
その他	0	0
計	24	4

5 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。
前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
滋賀県東近江市 当社 滋賀製作所	遊休資産	機械装置及び運搬具	18
チェコ ウンホスト市 T.RAD Czech s.r.o.	熱交換器製造販売事業	機械装置及び運搬具	70
ロシア ニジノヴゴロド市 TRM LLC	熱交換器製造販売事業	建物及び構築物	106
		機械装置及び運搬具	137
		その他有形固定資産	20
		小計	265
		合計	354

資産のグルーピングに関しては、会社別・事業別など管理会計上の区分を考慮して決定しております。

当該グルーピングに基づき、減損会計の手続きを行った結果、遊休資産につきましては、将来の使用見込のない遊休資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該資産グループの回収可能価額は、備忘価額により評価しております。

熱交換器製造販売事業につきましては、上記の有形固定資産について、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなったため、帳簿価格を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、T.RAD Czechs.r.o.においては、将来キャッシュ・フローを10%で割り引いて算定しており、TRM LLCにおいては、将来キャッシュ・フローを18%で割り引いて算定しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
チェコ ウンホスト市 T.RAD Czech s.r.o.	熱交換器製造販売事業	機械装置及び運搬具	28
		合計	28

資産のグルーピングに関しては、会社別・事業別など管理会計上の区分を考慮して決定しております。

当該グルーピングに基づき、減損会計の手続きを行った結果、上記の有形固定資産について、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなったため、帳簿価格を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、T.RAD Czechs.r.o.においては、将来キャッシュ・フローを10%で割り引いて算定しております。

6 課徴金等の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
調査関係費用等	592百万円	1,998百万円

自動車部品（ラジエータ他）の販売に関し、独占禁止法関連の当局による調査及び、それに関する訴訟等が進行しており、前連結会計年度及び当連結会計年度におきましては、当該調査関係費用及び、一部顧客に対する和解金を特別損失として計上しております。

7 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
91百万円	19百万円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	984百万円	496百万円
組替調整額	333	641
税効果調整前	651	145
税効果額	198	44
その他有価証券評価差額金	453	101
為替換算調整勘定：		
当期発生額	967	359
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	235	303
組替調整額	33	44
税効果調整前	201	259
税効果額	61	79
退職給付に係る調整額	140	180
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	147	18
組替調整額	-	218
持分法適用会社に対する持分相当額	147	199
その他の包括利益合計	520	239

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	83,444	-	-	83,444
合計	83,444	-	-	83,444
自己株式				
普通株式(注)	1,302	2,522	-	3,825
合計	1,302	2,522	-	3,825

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、取締役会決議による自己株式の取得による増加2,515千株、単元未満株式の買取りによる増加7千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	246	3	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年11月4日 取締役会	普通株式	238	3	平成28年9月30日	平成28年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	238	利益剰余金	3	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式 (注) 1. 2.	83,444	-	75,099	8,344
合計	83,444	-	75,099	8,344
自己株式				
普通株式 (注) 1. 3. 4.	3,825	6	3,447	384
合計	3,825	6	3,447	384

(注) 1. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

2. 普通株式の発行済株式総数の減少75,099千株は、株式併合によるものであります。

3. 普通株式の自己株式の株式数の増加6千株は、株式併合に伴う端数の買取による増加0千株、単元未満株式の買取による増加6千株（株式併合前5千株、株式併合後0千株）によるものであります。

4. 普通株式の自己株式の株式数の減少3,447千株は、株式併合による減少3,447千株によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	238	3	平成29年3月31日	平成29年6月29日
平成29年11月6日 取締役会	普通株式	238	3	平成29年9月30日	平成29年12月1日

(注) 平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式併合前の金額を記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月27日 定時株主総会	普通株式	477	利益剰余金	60	平成30年3月31日	平成30年6月28日

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

* 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金	6,025百万円	12,128百万円
有価証券	499	399
預入期間が3か月を超える定期預金	309	562
現金及び現金同等物	6,216	11,965

* 2 当連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の内訳

株式の取得により新たに青島東洋熱交換器有限公司を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに
同社株式の取得価額と同社取得のための支出(収入)との関係は次のとおりであります。

流動資産	4,675百万円
固定資産	1,555
のれん	453
流動負債	4,231
固定負債	96
非支配株主持分	684
既存持分	1,018
新規連結子会社の株式の取得価額	652
新規連結子会社の現金及び現金同等物	900
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得のための支出(収入)	247

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引 (借主側)

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として各種熱交換器製造・販売事業における生産設備、ホストコンピュータ及びコンピュータ端末機
(「機械及び装置」、「工具、器具及び備品」)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の
減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として各種熱交換器製造・販売事業における生産設備、ホストコンピュータ及びコンピュータ端末機
(「機械及び装置」、「工具、器具及び備品」)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の
減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画等に照らして必要な資金（主に銀行借入及びリース取引）を調達しております。金融商品により運用する資金は、余裕資金とし、運用の対象とする資産は、安全性、確実性、換金性を重視した流動性の高い金融商品で運用しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式及び余資運用を目的とした金融商品であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後5年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引を行っております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理しております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、先物為替予約を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた管理規程に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行なっております。取引状況については、毎月担当役員に報告しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時 価 （百万円）	差 額 （百万円）
(1) 現金及び預金	6,025	6,025	-
(2) 受取手形及び売掛金	19,198	19,198	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	7,214	7,214	-
資 産 計	32,437	32,437	-
(4) 支払手形及び買掛金	9,745	9,745	-
(5) 短期借入金	5,178	5,185	6
(6) 長期借入金	9,473	9,434	38
負 債 計	24,397	24,365	31
(7) デリバティブ取引（*1）	(20)	(20)	-

（*1）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時 価 （百万円）	差 額 （百万円）
(1) 現金及び預金	12,128	12,128	-
(2) 受取手形及び売掛金	24,928	24,928	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	6,634	6,634	-
資 産 計	43,691	43,691	-
(4) 支払手形及び買掛金	14,086	14,086	-
(5) 短期借入金	7,646	7,637	8
(6) 長期借入金	8,582	8,539	43
負 債 計	30,315	30,262	52
(7) デリバティブ取引（*1）	(2)	(2)	-

（*1）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 支払手形及び買掛金、並びに(5) 短期借入金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

ただし、「(5) 短期借入金」の金額に含まれている長期借入金のうち1年以内返済予定額については、下記「(6) 長期借入金」に記載の方法により時価を算定しております。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元本金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(7) デリバティブ取引

注記事項（デリバティブ取引関係）をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
関係会社株式	1,984	2,172
非上場株式	42	42
非上場債券	20	20
投資事業有限責任組合出資金等	0	0
合計	2,048	2,235

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,025	-	-	-
受取手形及び売掛金	19,198	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券	-	-	-	20
(2) その他	500	-	-	-
合計	25,723	-	-	20

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	12,128	-	-	-
受取手形及び売掛金	24,928	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券	-	-	-	20
(2) その他	400	-	-	-
合計	37,456	-	-	20

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,256	-	-	-	-	-
長期借入金	922	2,528	2,278	828	3,527	310
合計	5,178	2,528	2,278	828	3,527	310

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	5,098	-	-	-	-	-
長期借入金	2,547	2,295	803	3,941	1,321	220
合計	7,646	2,295	803	3,941	1,321	220

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

3. その他有価証券

前連結会計年度 (平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	6,714	5,061	1,652
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	6,714	5,061	1,652
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	499	499	-
	小計	499	499	-
合計		7,214	5,561	1,652

当連結会計年度 (平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	6,234	4,728	1,506
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	6,234	4,728	1,506
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	399	399	-
	小計	399	399	-
合計		6,634	5,128	1,506

4．売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
(1) 株式	602	333	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	602	333	-

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
(1) 株式	990	641	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	990	641	-

5．減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	円	292	-	20	20
	米ドル	58	-	0	0
合計		350	-	20	20

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	円	445	-	2	2
	米ドル	56	-	0	0
合計		502	-	2	2

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社においては、退職金制度は、確定給付企業年金制度を採用しております。一部の海外連結子会社においては、退職一時金制度(非積立型)を設けております。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)は、勤続年数ごとに定められたポイントに基づいた一時金または年金を支給します。

2. 確定給付制度(簡便法を適用した制度を除く)

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	8,104百万円	8,424百万円
勤務費用	490	466
利息費用	60	63
数理計算上の差異の発生額	0	6
退職給付の支払額	229	205
その他	0	1
退職給付債務の期末残高	8,424	8,740

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	8,102百万円	8,556百万円
期待運用収益	141	149
数理計算上の差異の発生額	235	297
事業主からの拠出額	306	305
退職給付の支払額	228	197
年金資産の期末残高	8,556	9,112

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	8,343百万円	8,645百万円
年金資産	8,556	9,112
	212	467
非積立型制度の退職給付債務	81	95
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	131	371
退職給付に係る負債	81	95
退職給付に係る資産	212	467
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	131	371

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	490百万円	466百万円
利息費用	60	63
期待運用収益	141	149
数理計算上の差異の費用処理額	43	21
過去勤務費用の費用処理額	76	66
確定給付制度に係る退職給付費用	375	335

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
過去勤務費用	76百万円	66百万円
数理計算上の差異	278	325
合計	201	259

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	79百万円	12百万円
未認識数理計算上の差異	635	961
合計	714	973

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	27%	32%
株式	35	32
生保一般勘定	33	32
その他	5	4
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の配分と、それぞれの資産の予想される長期の収益率を考慮して設定しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
割引率	0.70%	0.70%
長期期待運用収益率	1.75%	1.75%

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	2,643百万円	1,948百万円
減損損失	115	99
未実現損益	136	239
減価償却費	176	182
たな卸資産評価損	144	40
投資有価証券等評価損	68	68
賞与引当金損金算入限度超過額	391	446
未払和解金	30	208
未払社会保険料(賞与分)	54	63
外国税控除	59	59
その他	565	411
繰延税金資産小計	4,385	3,769
評価性引当額	1,542	1,306
繰延税金資産合計	2,843	2,463
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	504	459
減価償却費	1,327	926
特別償却準備金	2	2
固定資産圧縮積立金	50	49
退職給付に係る資産	64	142
退職給付信託返還有価証券	791	791
関係会社留保利益	1,082	1,286
その他	147	226
繰延税金負債合計	3,972	3,884
繰延税金負債の純額	1,128	1,421

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	652百万円	947百万円
固定資産 - 繰延税金資産	196	31
固定負債 - 繰延税金負債	1,977	2,400

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.7%	30.8%
関連会社持分法損益	4.2	1.9
段階取得差益	-	3.4
在外子会社税率差異	5.3	5.9
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.2	2.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.5	0.2
評価性引当額の増減	0.5	0.2
住民税均等割	0.7	0.4
関係会社留保利益	4.7	7.5
税額控除	1.6	0.6
その他	1.0	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.2	29.1

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

平成29年12月22日に米国において税制改革法が成立し、米国連結子会社に適用される連邦法人税率は、35%から21%に引き下げられることとなりました。この引き下げにより、当連結会計年度の繰延税金負債（繰延税金資産の金額を控除した金額）が53百万円減少し、法人税等調整額も同額減少しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社は、当社の持分法適用関連会社であった青島東洋熱交換器有限公司の株式を追加取得し、同社は当社の連結子会社となりました。その概要は以下のとおりであります。

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称：青島東洋熱交換器有限公司

事業の内容：自動車用の熱交換器等製造・販売

企業結合を行った主な理由

当社グループとの連携を強化し、中国ローカル客先向けのビジネスを更に拡大するため、被取得企業を連結子会社化する事といたしました。

企業結合日

平成29年10月31日

企業結合の法的形式

株式の取得

結合後企業の名称

変更ありません。

取得した議決権比率

取得直前に所有していた議決権比率 39%

企業結合日に追加取得した議決権比率 25%

取得後の議決権比率 64%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成29年10月1日から平成29年12月31日

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に保有していた持分の企業結合日における時価 1,018百万円

追加取得に伴い支出した現金及び預金 652

取得原価 1,671

(4) 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 607百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれんの金額

453百万円

発生原因

取得原価が企業結合時における時価純資産の持分相当額を上回ったため、その差額をのれんとして認識しております。

償却方法及び償却期間

3年間で均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	4,675百万円
固定資産	1,555
資産合計	6,230
流動負債	4,231
固定負債	96
負債合計	4,328

(7) 企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	5,605百万円
営業利益	217
経常利益	186
税金等調整前当期純利益	186
親会社株主に帰属する当期純利益	75
1株当たり当期純利益	9.45円

(注) 上記影響額は、連結損益計算書において持分法投資損益として反映されております。

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報と当社の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を影響の概算額としております。企業結合時に認識されたのれんにつきましては、当期首に発生したのものとして、償却額を計算しております。また、当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っておりますが、当期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

工場建物等の除去に関して、使用されている有害物質を除去する義務等、及び倉庫用土地建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から30～31年と見積り、割引率は2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
期首残高	88百万円	89百万円
時の経過による調整額	0	0
期末残高	89	89

(賃貸等不動産関係)

連結子会社である東和興産株式会社では、愛知県名古屋市その他の地域において、賃貸用の倉庫(土地を含む)を有しております。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	511	509
期中増減額	1	1
期末残高	509	508
期末時価	544	544

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期末の時価は、社外の不動産鑑定士による鑑定評価等に基づく金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む)であります。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
賃貸用倉庫(土地含む)		
賃貸収益	53	53
賃貸費用	12	12
差額	41	41
その他(売却損益等)	-	-

- (注) 賃貸収益及び賃貸費用は、賃貸収益とこれに対応する費用(減価償却費、修繕費、租税公課等)であり、主な賃貸収益は売上高に、賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上されております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役と執行役員で構成する経営会議が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、自動車用をはじめとする各種熱交換器等を生産・販売しており、国内においては当社が、海外においては米国、欧州(チェコ・ロシア・ドイツ)、アジア(タイ・インドネシア・ベトナム)、中国の各地域の現地法人がそれぞれ担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、各地域において販売する製品を中心に生産し事業活動を展開しております。

したがって、当社は、生産・販売体制を基礎とした当社・現地法人のセグメントから構成されており、「日本」、「米国」、「欧州」、「アジア」及び「中国」の5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントでは、自動車用熱交換器等のほか、建設産業機械用熱交換器、空調機器用熱交換器及びその他の製品を生産・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの売上高は、生産地別の数値であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上又は振替高は独立企業間価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	日本	米国	欧州	アジア	中国	計		
売上高								
外部顧客への売上高	51,521	26,003	3,866	15,636	9,593	106,621	986	107,608
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,312	144	86	77	1,428	7,049	2,894	9,944
計	56,834	26,147	3,952	15,714	11,022	113,671	3,881	117,552
セグメント利益又は損 失()	777	334	284	986	1,717	2,862	256	3,118
セグメント資産	55,189	16,481	2,906	8,641	8,713	91,932	2,309	94,241
その他の項目								
減価償却費	2,899	1,046	249	1,132	343	5,672	75	5,747
持分法適用会社への 投資額	747	-	-	-	-	747	-	747
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	2,724	2,214	502	510	292	6,245	67	6,312

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	日本	米国	欧州	アジア	中国	計		
売上高								
外部顧客への売上高	56,862	30,236	4,126	17,055	15,242	123,523	966	124,490
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,659	164	603	105	1,604	9,138	3,197	12,336
計	63,522	30,401	4,729	17,161	16,846	132,662	4,164	136,826
セグメント利益又は損 失()	604	678	509	2,116	2,709	5,600	244	5,844
セグメント資産	62,750	17,055	5,633	9,080	17,607	112,127	2,345	114,473
その他の項目								
減価償却費	2,804	1,125	151	1,095	442	5,619	87	5,706
持分法適用会社への 投資額	531	-	-	-	-	531	-	531
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	3,827	1,674	754	578	221	7,056	122	7,179

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	113,671	132,662
「その他」の区分の売上高	3,881	4,164
セグメント間取引消去	9,944	12,336
連結財務諸表の売上高	107,608	124,490

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,862	5,600
「その他」の区分の利益	256	244
セグメント間取引消去	97	51
連結財務諸表の営業利益	3,216	5,792

（単位：百万円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	91,932	112,127
「その他」の区分の資産	2,309	2,345
セグメント間取引消去	15,027	20,231
連結財務諸表の資産合計	79,213	94,241

（単位：百万円）

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額（注）		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	5,672	5,619	75	87	64	155	5,683	5,550
持分法適用会社への投資額	747	531	-	-	2,370	1,640	3,117	2,172
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	6,245	7,056	67	122	543	1,386	5,769	5,793

（注）調整額は以下の通りです。

- 減価償却費の調整額は、固定資産に係る未実現損益の消去によるものです。
- 持分法適用会社への投資額の調整額は、持分法投資損益等によるものです。
- 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、次のとおりです。

固定資産に係る未実現損益の消去	496百万円
その他セグメント間の連結調整	889百万円

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 顧客の所在地別売上高

(単位：百万円)

日本	米国	欧州	アジア	中国	その他	合計
51,903	25,349	4,088	16,210	9,588	467	107,608

(2) 有形固定資産（資産の所在地別）

(単位：百万円)

日本	米国	欧州	アジア	中国	合計
13,691	8,068	1,456	3,619	2,770	29,607

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
トヨタ自動車(株)	11,704	日本

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 顧客の所在地別売上高

(単位：百万円)

日本	米国	欧州	アジア	中国	その他	合計
56,878	29,247	4,292	18,186	14,915	969	124,490

(2) 有形固定資産（資産の所在地別）

(単位：百万円)

日本	米国	欧州	アジア	中国	合計
13,950	8,201	2,222	3,020	3,858	31,254

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
トヨタ自動車(株)	12,372	日本

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	日本	米国	欧州	アジア	中国	その他 (注)	全社・消去	合計
減損損失	18	-	335	-	-	-	-	354

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	日本	米国	欧州	アジア	中国	その他 (注)	全社・消去	合計
減損損失	-	-	28	-	-	-	-	28

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	日本	米国	欧州	アジア	中国	その他 (注) 1	全社・消去	合計
当期償却額	-	39	-	-	-	-	-	39
当期末残高	-	225	-	-	-	-	-	225

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

2. 当期償却額は連結損益計算書の「販売費及び一般管理費」の「のれん償却額」に、当期末残高は連結貸借対照表の「固定資産」の「のれん」に、それぞれ含まれております。

なお、負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	日本	米国	欧州	アジア	中国	その他 (注) 1	全社・消去	合計
当期償却額	-	0	-	-	-	2	-	3
当期末残高	-	1	-	-	-	18	-	19

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

2. 当期償却額は連結損益計算書の「営業外収益」の「その他」に、当期末残高は連結貸借対照表の「固定負債」の「その他」に、それぞれ含まれております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	日本	米国	欧州	アジア	中国	その他 (注)1	全社・消去	合計
当期償却額	-	51	-	-	37	-	-	89
当期末残高	-	167	-	-	415	-	-	583

（注）1．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

2．当期償却額は連結損益計算書の「販売費及び一般管理費」の「のれん償却額」に、当期末残高は連結貸借対照表の「固定資産」の「のれん」に、それぞれ含まれております。

なお、負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	日本	米国	欧州	アジア	中国	その他 (注)1	全社・消去	合計
当期償却額	-	0	-	-	-	2	-	3
当期末残高	-	0	-	-	-	15	-	16

（注）1．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業などを営む国内子会社の事業活動を含んでおります。

2．当期償却額は連結損益計算書の「営業外収益」の「その他」に、当期末残高は連結貸借対照表の「固定負債」の「その他」に、それぞれ含まれております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
1株当たり純資産額	5,210.51円	5,635.91円
1株当たり当期純利益金額	252.69円	463.77円

（注）1．当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化を有する潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額 （百万円）	2,022	3,691
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額（百万円）	2,022	3,691
期中平均株式数（千株）	8,004	7,960

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,256	5,098	2.65	-
1年以内に返済予定の長期借入金	922	2,547	0.81	-
1年以内に返済予定のリース債務	572	378	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	9,473	8,582	0.67	平成31年6月～ 平成35年8月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	631	735	-	平成31年9月～ 平成34年11月
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	15,856	17,342	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,295	803	3,941	1,321
リース債務	304	222	94	111

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	29,236	58,916	90,487	124,490
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	1,895	2,298	4,965	5,567
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額 (百万円)	1,194	1,467	3,494	3,691
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	150.09	184.36	438.93	463.77

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	150.09	34.26	254.59	24.82

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,463	3,354
受取手形	377	330
電子記録債権	2,461	2,659
売掛金	11,882	13,650
有価証券	499	399
商品及び製品	1,143	1,153
仕掛品	1,093	341
原材料及び貯蔵品	502	529
前払費用	95	97
繰延税金資産	595	901
関係会社短期貸付金	576	400
未収入金	1,838	1,884
その他	2	1
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	22,531	25,677
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,129	11,279
減価償却累計額	8,669	8,869
建物(純額)	2,459	2,410
構築物	1,450	1,457
減価償却累計額	1,154	1,201
構築物(純額)	296	256
機械及び装置	22,289	22,719
減価償却累計額	16,826	17,331
機械及び装置(純額)	5,462	5,388
車両運搬具	117	119
減価償却累計額	107	99
車両運搬具(純額)	10	19
工具、器具及び備品	22,682	22,549
減価償却累計額	21,774	21,565
工具、器具及び備品(純額)	907	984
土地	1,207	1,228
リース資産	629	629
減価償却累計額	586	608
リース資産(純額)	43	21
建設仮勘定	631	1,616
その他(純額)	2	2
有形固定資産合計	11,022	11,926
無形固定資産		
ソフトウェア	283	189
その他	219	367
無形固定資産合計	502	557

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	6,758	6,278
関係会社株式	6,466	6,466
関係会社出資金	5,104	8,451
長期前払費用	72	42
保険積立金	129	113
その他	385	858
貸倒引当金	28	28
投資損失引当金	552	339
投資その他の資産合計	18,334	21,842
固定資産合計	29,859	34,326
資産合計	52,391	60,003
負債の部		
流動負債		
電子記録債務	2,949	3,470
買掛金	15,451	16,488
短期借入金	740	1,820
リース債務	370	296
未払金	453	486
未払法人税等	192	135
未払消費税等	299	177
未払費用	1,239	1,798
前受金	77	109
預り金	58	146
賞与引当金	1,253	1,442
役員賞与引当金	53	96
製品保証引当金	39	31
株主優待引当金	41	62
営業外電子記録債務	352	375
その他	102	685
流動負債合計	13,674	19,239
固定負債		
長期借入金	7,045	6,825
リース債務	540	696
繰延税金負債	727	707
退職給付引当金	510	520
資産除去債務	63	63
その他	27	24
固定負債合計	8,914	8,838
負債合計	22,589	28,077

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,545	8,545
資本剰余金		
資本準備金	7,306	7,306
その他資本剰余金	167	167
資本剰余金合計	7,473	7,473
利益剰余金		
利益準備金	1,097	1,097
その他利益剰余金		
配当準備積立金	500	500
固定資産圧縮積立金	107	104
別途積立金	8,130	8,130
繰越利益剰余金	3,690	5,927
利益剰余金合計	13,525	15,759
自己株式	891	899
株主資本合計	28,653	30,879
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,148	1,047
評価・換算差額等合計	1,148	1,047
純資産合計	29,801	31,926
負債純資産合計	52,391	60,003

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	56,834	63,522
売上原価		
製品期首たな卸高	795	1,009
当期製品製造原価	47,371	51,556
当期製品仕入高	800	1,479
他勘定受入高	1,645	2,077
合計	50,612	56,124
製品他勘定振替高	# 2 142	# 2 172
製品期末たな卸高	1,009	1,047
製品売上原価	49,459	54,904
売上総利益	7,374	8,618
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	2,191	2,426
広告宣伝費	17	22
製品保証引当金繰入額	8	31
役員報酬	174	176
給料及び手当	1,114	1,001
賞与引当金繰入額	229	318
役員賞与引当金繰入額	53	96
退職給付引当金繰入額	69	65
福利厚生費	405	419
減価償却費	143	137
修繕費	74	79
租税公課	74	72
賃借料	178	188
旅費交通費及び通信費	326	365
研究開発費	1,095	1,453
保険料	30	28
貸倒引当金繰入額	0	-
事務用品費	22	22
交際費	52	53
株主優待引当金繰入額	40	65
支払手数料	213	249
雑費	67	739
販売費及び一般管理費合計	6,583	8,012
営業利益	790	605
営業外収益		
受取利息	10	10
有価証券利息	1	1
受取配当金	# 1 2,177	# 1 3,295
仕入割引	0	-
為替差益	-	53
その他	93	103
営業外収益合計	2,282	3,464

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業外費用		
支払利息	51	38
為替差損	160	-
その他	5	5
営業外費用合計	217	44
経常利益	2,856	4,025
特別利益		
固定資産売却益	# 3 3	# 3 0
投資有価証券売却益	333	641
投資損失引当金戻入額	-	213
新株予約権戻入益	37	-
特別利益合計	375	856
特別損失		
固定資産除却損	# 4 80	# 4 94
固定資産売却損	# 5 3	# 5 0
投資損失引当金繰入額	351	-
関係会社出資金評価損	61	-
減損損失	# 6 18	-
ゴルフ会員権評価損	0	-
課徴金等	# 7 592	# 7 1,998
特別損失合計	1,109	2,093
税引前当期純利益	2,122	2,788
法人税、住民税及び事業税	294	358
法人税等調整額	76	281
法人税等合計	217	77
当期純利益	1,904	2,711

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金						
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計
						配当準備積立金	固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	8,545	7,306	167	7,473	1,097	500	110	0	8,130	2,267	12,106
当期変動額											
特別償却準備金の取崩								0		0	-
固定資産圧縮積立金の取崩							3			3	-
剰余金の配当										485	485
当期純利益										1,904	1,904
自己株式の取得											-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）											
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	3	0	-	1,423	1,419
当期末残高	8,545	7,306	167	7,473	1,097	500	107		8,130	3,690	13,525

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	405	27,719	695	695	37	28,452
当期変動額						
特別償却準備金の取崩		-				-
固定資産圧縮積立金の取崩		-				-
剰余金の配当		485				485
当期純利益		1,904				1,904
自己株式の取得	485	485				485
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			453	453	37	415
当期変動額合計	485	933	453	453	37	1,348
当期末残高	891	28,653	1,148	1,148	-	29,801

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					配当準備積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	8,545	7,306	167	7,473	1,097	500	107	8,130	3,690	13,525
当期変動額										
固定資産圧縮積立金の取崩							2		2	-
剰余金の配当									477	477
当期純利益									2,711	2,711
自己株式の取得										
自己株式の処分			0	0						
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	0	0	-	-	2	-	2,236	2,234
当期末残高	8,545	7,306	167	7,473	1,097	500	104	8,130	5,927	15,759

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	891	28,653	1,148	1,148	29,801
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
剰余金の配当		477			477
当期純利益		2,711			2,711
自己株式の取得	8	8			8
自己株式の処分	0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			101	101	101
当期変動額合計	8	2,226	101	101	2,124
当期末残高	899	30,879	1,047	1,047	31,926

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - (1) 子会社株式及び関連会社株式
総平均法による原価法を採用しております。
 - (2) その他有価証券
時価のあるもの
決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)を採用しております。
時価のないもの
総平均法による原価法を採用しております。
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
 - (1) 製品、半製品、原材料
総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。
 - (2) 仕掛品
個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。
 - (3) 貯蔵品
最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)
主として定率法を採用しております。
なお、主な耐用年数については次の通りであります。
建物 3～47年
機械及び装置 2～17年
また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、法人税法の規定に基づき3年間で均等償却する方法を採用しております。
 - (2) 無形固定資産(リース資産を除く)
定額法を採用しております。
なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
 - (3) リース資産
リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。
 - (4) 長期前払費用
均等償却によっております。なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛債権及びその他の債権について貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 投資損失引当金

関係会社に対する投資に伴う損失に備えるため、その財政状態等を勘案して損失見込額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員賞与に充てるため、支給見込額を計上しております。

(4) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(5) 製品保証引当金

製品のアフターサービスに対する支出に備えるため、過去の実績を基礎にして発生見込額を計上しております。

(6) 株主優待引当金

株主優待制度に伴う支出に備えるため、過去の使用実績率等に基づき、発生見込額を計上しております。

(7) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、ポイント基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理により会計処理を行っております。なお、為替予約の付されている外貨建金銭債権については振当処理を行っております。また、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約、ヘッジ対象：外貨建売掛金

ヘッジ手段：金利スワップ取引、ヘッジ対象：借入金

(3) ヘッジ方針

外貨建取引の為替相場の変動リスクを軽減する目的で為替予約取引を行っております。

また、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

為替予約取引について、通貨種別・期日・金額の同一性を確認することにより、行っております。

また、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(3) 連結納税制度の適用

当社は、連結納税制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
流動資産		
売掛金	1,742百万円	1,846百万円
未収入金	370	249
流動負債		
買掛金	176	206

2 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

債務保証

	前事業年度 (平成29年3月31日)		当事業年度 (平成30年3月31日)
T.RAD Czech s.r.o. (240,000千CZK)	1,058百万円	T.RAD Czech s.r.o. (90,000千CZK)	463百万円
T.RAD Czech s.r.o. (-千EUR)	-	T.RAD Czech s.r.o. (505千EUR)	66
TRM LLC (96,000千RUB)	192	TRM LLC (138,000千RUB)	256
計	1,250	計	786

3 期末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務

期末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	-百万円	31百万円
電子記録債権	-	206
電子記録債務	-	1,134
営業外電子記録債務	-	211

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
関係会社からの受取配当金	1,961百万円	3,087百万円

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
研究費への振替高	110百万円	156百万円
その他	32	16
計	142	172

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械及び装置	3百万円	0百万円
車両運搬具	-	0
工具、器具及び備品	0	0
計	3	0

4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	5百万円	22百万円
構築物	4	4
機械及び装置	65	62
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	4	5
ソフトウェア	0	-
計	80	94

5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械及び装置	3百万円	- 百万円
車両運搬具	-	0
計	3	0

6 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。
前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
滋賀県東近江市 当社 滋賀製作所	遊休資産	機械及び装置	18

資産のグルーピングは、事業別など管理会計上の区分を考慮して決定しております。

当該グルーピングに基づき、減損会計の手続きを行った結果、遊休資産につきましては、将来の使用見込のない遊休資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該資産グループの回収可能価額は、備忘価額により評価しております。

なお、当連結会計年度については、該当事項はありません。

7 課徴金等の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
調査関係費用等	592百万円	1,998百万円

自動車部品（ラジエータ他）の販売に関し、独占禁止法関連の当局による調査及び、それに関する訴訟等が進行しており、前事業年度及び当事業年度におきましては、当該調査関係費用及び、一部顧客に対する和解金を特別損失として計上しております。

（有価証券関係）

子会社株式及び関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は、子会社株式5,935百万円、関連会社株式531百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は、子会社株式5,935百万円、関連会社株式531百万円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
減価償却費	151百万円	154百万円
たな卸資産評価損	16	14
投資有価証券等評価損	1,884	1,883
賞与引当金損金算入限度超過額	385	440
未払和解金	30	208
未払社会保険料(賞与分)	54	63
役員賞与引当金	16	29
退職給付引当金	155	158
減損損失	16	16
外国税控除	59	59
繰越欠損金	1,044	842
その他	393	381
繰延税金資産小計	4,207	4,253
評価性引当額	2,996	2,763
繰延税金資産合計	1,210	1,490
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	504	459
固定資産圧縮積立金	47	44
退職給付信託返還有価証券	791	791
繰延税金負債合計	1,342	1,296
繰延税金資産又は繰延税金負債の純額	132	193

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.7%	30.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	9.7	12.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	27.7	32.9
評価性引当額の増減	1.1	6.6
住民税均等割	0.9	0.7
税額控除	2.2	1.2
税率変更による期末繰延税金負債の増額修正	0.2	-
その他	2.4	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	10.3	2.8

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残 高 (百万円)
有形固定資産							
建物	11,129	232	82	11,279	8,869	273	2,410
構築物	1,450	9	3	1,457	1,201	49	256
機械及び装置	22,289	A 1,203	773	22,719	17,331	1,219	5,388
車両運搬具	117	18	16	119	99	6	19
工具、器具及び備品	22,682	B 1,168	1,301	22,549	21,565	1,082	984
土地	1,207	20	-	1,228	-	-	1,228
リース資産	629	-	-	629	609	22	21
建設仮勘定	631	2,159	1,174	1,616	-	-	1,616
その他	2	-	-	2	-	-	2
有形固定資産計	60,141	4,813	3,352	61,602	49,675	2,654	11,926
無形固定資産							
ソフトウェア	1,277	54	434	897	707	148	189
その他	239	154	4	390	22	1	367
無形固定資産計	1,517	209	439	1,287	729	149	557
長期前払費用	133	2	9	125	82	22	42

(注) 当期増減額の主な内訳は次のとおりです。

- A. 機械及び装置 1,203百万円
 内、熱交換器製造設備 964百万円
 内、試験研究設備 216百万円
 B. 工具、器具及び備品 1,168百万円
 内、金型 825百万円
 内、試験研究用器具 62百万円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	28	-	-	-	28
投資損失引当金	552	-	-	213	339
賞与引当金	1,253	1,442	1,253	-	1,442
役員賞与引当金	53	96	53	-	96
製品保証引当金	39	31	39	-	31
株主優待引当金	41	62	41	-	62

(注) 投資損失引当金の「当期減少額(その他)」は、関係会社の財政状態改善による戻入額であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	<p>(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 三井住友信託銀行株式会社 本店</p> <p>(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 三井住友信託銀行株式会社</p> <p>以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取った単元未満株式の数で按分した金額とする。 (算式) 1株当たりの買取価格に1単元の株式数を乗じた合計金額のうち 100万円以下の金額につき 1.150% 100万円を超え500万円以下の金額につき 0.900% 500万円を超え1,000万円以下の金額につき 0.700% (円未満の端数を生じた場合には切り捨てる) ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合は、2,500円とする。</p>
公告掲載方法	東京都において発行する日本経済新聞に掲載する。
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第115期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第116期第1四半期）（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月7日関東財務局長に提出。

（第116期第2四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月7日関東財務局長に提出。

（第116期第3四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月6日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

平成29年6月30日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（定時株主総会における決議事項）の規定に基づく臨時報告書であります。

平成29年11月7日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月27日

株式会社ティラド

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 向出 勇治 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 松本 雄一 印
業務執行社員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ティラドの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ティラド及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ティラドの平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ティラドが平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2 . X B R L データは監査の対象に含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月27日

株式会社ティラド

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 向出 勇治 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 松本 雄一 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ティラドの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第116期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ティラドの平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- () 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象に含まれていません。